公益社団法人日本薬理学会報告

本報告は平成 28 年度の学術評議員会・通常総会資料を基に作成しています．学会誌の刊行，決算及び収支予算については，会計（事業）年度で提示しています．

【 目　次 】

Ⅰ．学術評議員会及び通常総会報告

Ⅱ．平成 27 年度事業報告

Ⅲ．平成 27 年度決算報告

Ⅳ．平成 28 年度事業計画

Ⅴ．平成 28 年度収支予算

Ⅵ．部会選出新常置委員一覧

Ⅶ．規則の制定，変更等

Ⅷ．理事会等報告

Ⅸ．委員会等報告

Ⅹ．新学術評議員一覧

Ⅰ．学術評議員会及び通常総会報告

日　時：平成 28 年 3 月 9 日（水）15 時 5 分～17 時 10 分
場　所：パシフィコ横浜 会議センター　メインホール（神奈川県横浜市）
議決権を有する構成員数：総会（135 名），学術評議員会：1,297 名
議決権を有する出席者数：通 常 総 会　：出席者数 111 名（本人出席 72 名，議決権行使 38 名，委任状 1 名）
学術評議員会　：出席者数 856 名（本人出席 324 名(うち役員 15 名)，委任状 532 名）
議長及び議事録署名人：　通 常 総 会　：議 長 ：　飯野 正光　　署名人：五嶋 良郎，　津田 誠
学術評議員会　：議 長 ：　石井 邦雄　　署名人：五嶋 良郎，　津田 誠

付議事項

第 1 号議案　理事及び監事選任の件

議長より，定款施行細則第 10 条に則り選出された理事候補者 14 名，定款第 43 条第 2 項及び定款施行細則第 9 条に則り選出された理事候補者 4 名並びに定款施行細則第 12 条に則り選出された監事候補者 2 名を選任する件について候補者ごとに決議を行った結果，満場一致で理事候補者 18 名及び監事候補者 2 名の全員を承認・可決した．

新理事：[北]　南　　雅文，吉岡　充弘
[関東]　赤羽　悟美，池谷　裕二，石毛久美子，松木　則夫，渡邉　裕司
[近畿]　赤池　昭紀，今泉　祐治，金井　好克，橋本　　均，山田　清文
[西南]　荒木　博陽，宮田　篤郎
[役員選考委員会選出理事]　石井　邦明，今井由美子，上園　保仁，高橋　健三

新監事：馬嶋　正隆，三輪　聡一

第 2 号議案　平成 27 年度事業報告及び決算の件

理事長より，配布した資料に基づき平成 27 年度事業報告及び会員の状況が報告された．続いて財務委員長より平成 27 年度決算について貸借対照表，正味財産増減計算書，貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書並びに財産目録について説明と報告がなされた．監事より，平成 27 年度公益社団法人日本薬理学会の事業及び決算を監査の結果，適正に処理されていることを確認した旨の監事監査結果が報告された．議長より，平成 27 年度事業報告及び決算について付議され，満場一致で承認，可決した．

第 3 号議案　平成 28 年度事業計画及び収支予算の件

財務委員長より，平成 28 年度の事業計画及び予算について説明がなされた．本会議に提示する事業計画及び予算は，平成 27 年 12 月 12 日に開催された理事会で承認され，昨年末に内閣府に提出したものであること，前期理事会における財政改善に向けた取り組みが奏効し，今期は活気ある学術集会，女性の参画の推進，国際連携による学会のグローバル化に向けた事業を積極的に行うとの方針が合わせて説明された．議長より平成 28 年度事業計画及び予算について付議され，満場一致で承認・可決した．

第 4 号議案　諸規則の件

総務委員長より，1）Journal of Pharmacological Sciences（JPS）査読者の質の向上と掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で創設された JPS 優秀査読者賞の選考手順と運営について定めた JPS 優秀査読者賞各規定の制定案，2）国際対応を中長期計画のもとに推進していく目的で設立する国際対応委員会の運営について定めた JPS 国際対応委員会規定制定案，3）年会長経験を名誉会員推薦規定運用基準に追加する名誉会員推薦規定運用基準変更案，4）本会の選挙を全面電子化するための役員等実施規定及び代議員選挙実施規定各変更案，5）役員選考委員会委員に，就任年の 4 月 1 日において年齢満 65 歳未満とする年齢要件と連続 2 期を超えて就任することはできないとする再任の要件を追加した役員選考委員会規定変更案等が合わせて付議され，満場一致で承認，可決した．

第 5 号議案　名誉会員及び永年会員の件

理事会が推薦した名誉会員候補者の石井 邦雄，井上 和秀，大熊 誠太郎，岡村 富夫，小口 勝司，越川 憲明，田中 利男，仲田 義啓，中谷 晴昭，柳澤 輝行，米田 幸雄及び大村 智，以上 12 氏の平成 28 年度名誉会員への推戴，及び永年会員候補者丸山 悠司氏の平成 28 年度永年会員への推戴の件について付議され，満場一致で承認，可決した．

第 6 号議案　第 91 回年会長の件

理事長より，第 91 回年会は WCP2018 が開催される平成 30 年 7 月の開催で，通常の年会開催時期とは異なることから第 91 回年会長には通常の年会長資格を適用せず，特別年会長の呼称を使用することとし，理事会は WCP2018 大会長の成宮 周京都大学教授を特別年会長として選考したことが報告された．議長より，成宮 周氏を第 91 回特別年会長に決定する件につき付議され，満場一致でこれを承認，可決した．

第 7 号議案　新学術評議員の件

企画教育委員長より，新学術評議員候補者として 27 名を選定したことが審査経過とともに報告された．議長より，平成 28 年度学術評議員に選任する件について付議され，本会議は満場一致でこれを承認，可決した．

各種報告

1．理事会報告が理事長より，常置委員会報告，特別委員会報告が各委員長又は委員長代行よりなされた．ダイバーシティの取組報告がダイバーシティ担当理事より，国際対応の報告が日本学術会議 IUPHAR 分科会委員長より，次世代の会の活動報告が同会代表よりなされた．

2．植田 弘師第 90 回年会長より，平成 29 年の年会の案内及び準備状況が報告された．

Ⅱ．平成 27 年度事業報告

１． 学術集会,講演会等の開催（定款第 4 条第 1 号）

(1) 年　　会

第 88 回日本薬理学会年会『医薬科学立国への革新』

平成 27 年 3 月 18 日(水)～20 日(金)，名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)

年会長：今泉 祐治（名古屋市立大学･院薬），　参加者 2,285 名，　演題数 663 題

（学術評議員 575 名，一般会員 426 名，非会員 282 名，大学院生 280 名，学部学生 257 名，
名誉会員・永年会員・招待演者・共催セミナー・展示企業関係者等 465 名）

プレナリーレクチャー 1，特別講演 10，受賞講演 4（江橋節郎賞 1，学術奨励賞 3）

シンポジウム 254，一般演題 664（優秀発表賞演題 88，一般口演 165，ポスター 411）

(2) 地方部会

第 127 回日本薬理学会近畿部会　　会　長：稲垣　直樹(岐阜薬科大学･薬)
平成 27 年 6 月 26 日，長良川国際会議場(岐阜市)
参加者約 230 名，ランチョンセミナー2，一般演題（口演 68）

第 132 回日本薬理学会関東部会　　会　長：坂上　宏（明海大学･歯）
平成 27 年 7 月 4 日，明海大学浦安キャンパス(千葉県浦安市)
参加者約 250 名，ランチョンセミナー，教育講演 1，一般演題（口演 34,ポスター40）

第 66 回日本薬理学会北部会　　会　長：服部　裕一(富山大学･院医)
平成 27 年 9 月 18 日，富山国際会議場(富山市)
参加者約 170 名，一般演題（口演 68）

第 133 回日本薬理学会関東部会　　会　長：岡　淳一郎(東京理科大学･薬)
平成 27 年 10 月 10 日，柏の葉カンファレンスセンター(千葉県柏市)
参加者約 220 名，ミニシンポジウム 4，一般演題（口演 22，ポスター20）

第 128 回日本薬理学会近畿部会　　会　長：前田　定秋(摂南大学･薬)
平成 27 年 11 月 20 日，千里ライフサイエンスセンター(大阪府豊中市)
参加者 247 名，一般演題（口演 75）

第 68 回日本薬理学会西南部会　　会　長：乾　　誠(山口大学･院医)
平成 27 年 11 月 21 日，海峡メッセ下関(山口県下関市)
参加者 133 名，一般演題（口演 49，ポスター9）

(3) セミナー等の開催（年会会期分を除く）

・新薬理学セミナー2015　　平成 27 年 9 月 19 日，富山国際会議場(富山市)，参加者　35 名
『炎症を基盤病態とする疾病に対する新たなる創薬研究への挑戦』　　世話人：服部　裕一(富山大学･院医)

・新薬理学セミナー2015　　平成 27 年 11 月 21 日，海峡メッセ下関(山口県下関市)，参加者　約 40 名
『分子の構造・機能をＸ線と電子線で見る』　　世話人：乾　　誠(山口大学･院医)

・公開講座（第 88 回年会）　　平成 27 年 3 月 21 日，名古屋市中区役所ホール(愛知県名古屋市)，参加者：477 名
『時と睡眠と薬』　　責任者:今泉 祐治(名古屋市立大学･院薬)

・公開講座(北部会)　　平成 27 年 9 月 19 日，富山国際会議場(富山市)，参加者：65 名
『妊娠とくすり』　　責任者：服部　裕一(富山大学･院医)

(4) 他学会等との共催学術集会の開催

・日本臨床薬理学会との共催シンポジウムの開催
第 88 回日本薬理学会年会時　　平成 27 年 3 月 18 日，名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)
『痛風・尿酸代謝研究　最近の進歩：From bench to bedside』
オーガナイザー：安西 尚彦(獨協医科大学･医)
笹栗 俊之(九州大学･院医)

・日本生理学会との合同シンポジウムの開催
第 88 回日本薬理学会年会時　　平成 27 年 3 月 19 日，名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)
『心血管カチオンチャネル研究の最前線』
オーガナイザー：西田 基宏(岡崎統合バイオ･心循環)
中山 博之(大阪大学･院薬)

(5) 内外の関連学術団体との連携及び協力

・IUPHAR Nomenclature Committee（NC-IUPHAR）のデータベース講習会が第 88 回年会（今泉年会長）で開催され，講演内容を動画に撮り，学会ホームページから配信している．

・ASCEPT（オーストラリア・ニュージーランド薬理学会）との講師交換プログラムにより，金井 好克教授が平成 27 年 12 月 2 日の ASCEPT 年会で講演を行った．

・ASPET と相互交流事業を開始し，第 89 回年会（石井年会長）に Jeffrey Conn 教授の招へいを決定した．

・中国薬理学会創立 30 周年記念学術集会（北京市）で飯野理事長が講演を行った．

・第 13 回 Asia Pacific Federation of Pharmacologist(APFP) が平成 28 年 2 月 1 日～3 日までバンコク市（タイ）で開催された．理事長他が出席し WCP2018 の広報活動を行った．

２．学会誌等刊行物の刊行（定款第 4 条第 2 号）

(1) Journal of Pharmacological Sciences の刊行

発行巻号　127 巻 1～4 号，128 巻 1～4 号，129 巻 1～4 号
128 巻 Supplement（the 88th Annual Meeting）

		掲載頁数	（篇数）
① Review		83 頁	(11)
② Full Paper		781 頁	(103)
③ Short Communication		87 頁	(21)
④ Preface, Corrigendum, etc.		7 頁	
	小計	958 頁	(135)
⑥ Vol.128 Supplement Ⅰ		279 頁	
	合計	1,237 頁	(135)

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとからだ／ファーマコロジカ）の刊行

発行巻号（部数）　145 巻 1～3 号（各 4,150 部），145 巻 4 号（3,300 部），
145 巻 5 号（3,560 部），145 巻 6 号（3,700 部）
146 巻 1 号（3,750 部），146 巻 2 号（3,800 部），146 巻 3 号（3,850 部）
146 巻 4 号（3,900 部），146 巻 5 号（4,000 部），146 巻 6 号（4,150 部）

	掲載頁数	（篇数）
① 特集序文	12 頁	(12)
② 特集および総説	320 頁	(59)
③ 実験技術	36 頁	(6)
④ 創薬シリーズ	58 頁	(9)
⑤ 新薬紹介総説	149 頁	(18)
⑥ キーワード解説	25 頁	(8)
⑦ 最近の話題	14 頁	(13)
⑧ サイエンス/リレーエッセイ	11 頁	(11)
⑨ 学会便り/研究室訪問	8 頁	(8)
⑩ アゴラ	22 頁	(11)
⑪ ブルー頁	7 頁	
⑫ 広告	136 頁	
⑬ 綴込み，目次等上記以外の頁	174 頁	
合計	972 頁	(155)

(3) 会員名簿の発行

所属別会員名簿　1 冊

３．研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第４条第３号）

(1) 第８回日本薬理学会江橋節郎賞授賞

貝淵　弘三（名古屋大学大学院医学系研究科 神経情報薬理･教授）

第９回日本薬理学会江橋節郎賞決定

森　　泰生（京都大学大学院地球環境学堂及び工学研究科･教授）

(2) 第30回日本薬理学会学術奨励賞授賞（所属等の標記は授賞時）

小山　隆太（東京大学大学院薬学系研究科薬品作用学教室）
『乳幼児脳の神経回路形成機構の解明』

白川　久志（京都大学大学院薬学研究科生体機能解析学分野）
『グリア細胞の活性化状態を制御するカチオンチャネルに関する分子薬理学的研究』

村田　幸久（東京大学大学院農学生命科学研究科放射線動物科学研究室）
『炎症抑制機構の解明と病態治療への応用』

第31回日本薬理学会学術奨励賞決定（裏表紙）

(3) 第20回 Journal of Pharmacological Sciences 優秀論文賞決定（掲載順）

Tea Polyphenols Inhibit Rat Osteoclast Formation and Differentiation
Yoshiomi Oka, Shinichi Iwai, Hitoshi Amano, Yuko Irie, Kentaro Yatomi, Kakei Ryu, Shoji Yamada, Katsunori Inagaki, Katsuji Oguchi
Vol. 118, No. 1 pp. 55-64 (2012)

Nicotine- and Tar-Free Cigarette Smoke Induces Cell Damage Through Reactive Oxygen Species Newly Generated by PKC-Dependent Activation of NADPH Oxidase
Hiroshi Asano, Takahiro Horinouchi, Yosuke Mai, Osamu Sawada, Shunsuke Fujii, Tadashi Nishiya, Masabumi Minami, Takahiro Katayama, Toshihiko Iwanaga, Koji Terada, Soichi Miwa
Vol. 118, No. 2 pp. 275-287 (2012)

Activation of ERK-p53 and ERK-Mediated Phosphorylation of Bcl-2 Are Involved in Autophagic Cell Death Induced by the c-Met Inhibitor SU11274 in Human Lung Cancer A549 Cells
Ying Liu, Ying Yang, Yuan-Chao Ye, Qi-Feng Shi, Kuan Chai, Shin-ichi Tashiro, Satoshi Onodera, Takashi Ikejima[1)]
Vol. 118, No. 4 pp. 423-432 (2012)

(4) 第88回年会優秀発表賞（五十音順･20名）

宇津　美秋　（千葉大･院薬･高齢者薬剤学）
大森　啓介　（東京大･農･放射線動物科学）
丸藤　雅大　（秋田大･医･情報制御）
北島　奈美　（東京大･院医・薬理）
木村　　生　（慶應大･医･精神）
久保田晋平　（東京大･院医・システムズ薬理）
粂井　志麻　（旭川医大･薬理）
栗田　　卓　（名古屋市大･院薬･細胞分子薬効解析）
洲崎　悦生　（東京大･院医･システムズ薬理）
須田　雪明　（星薬大･薬理）
高尾　浩之　（秋田大･医･情報制御）
外山　喬士　（岡崎統合バイオ･心循環シグナル）
長沼　史登　（東北大･院医･機能薬理）
中本賀寿夫　（神戸学院大･薬･臨床薬学）
西村　明幸　（岡崎統合バイオ･心循環シグナル）
藤川理沙子　（京都大･院医･臨床創成医学）
馬　　小駿　（京都大･院医･薬理）
宮脇　健行　（東京大･院薬･薬品作用）
由良　義充　（名古屋大･医･薬理）
渡邉　　萌　（星薬大･薬理）

４．薬理学に関する研究及び調査（定款第 4 条第 4 号）

(1) 会員動態の調査

第 88 回年会において年齢・性別のアンケート調査を実施した．アンケートによる会員動態の調査は今後も継続する．

(2) Guide to Pharmacology のデータベースと学会ホームページをリンクし，第 88 回年会にデータベースキュレーターの Adam Pawson 氏を招へいし，データベースの講習会を行った．講習会の模様を動画に撮り，学会ホームページで公開している．

５．内外の関連学術団体との連携及び協力（定款第 4 条第 5 号）

(1) 学術集会の共催および連携　上記 1.の(4)，(5) を参照

(2) 学術集会の協賛･後援　（平成 26 年年会から平成 27 年年会前まで）

協　賛

1)	第 22 回 HAB 研究機構学術年会	平成 27 年 6 月 26,27 日
2)	第 42 回日本毒性学会学術年会	6 月 29 日～7 月 1 日
3)	第 19 回活性アミンに関するワークショップ	8 月 20,21 日
4)	第 24 回バイオイメージング学会学術集会	9 月 27,28 日
5)	CBI（情報計算化学生物）学会 2015 年大会	10 月 27～29 日
6)	第 25 回日本循環薬理学会	12 月 4 日

後　援

1)	第 10 回日本分子イメージング学会総会・学術集会	平成 27 年 5 月 20,21 日
2)	日本ケミカルバイオロジー学会第 10 回年会	6 月 10～12 日
3)	医療薬学フォーラム 2015 /第 23 回クリニカルファーマシーシンポジウム	7 月 4,5 日
4)	第 8 回トランスポーター研究会九州部会	7 月 18 日
5)	第 59 回「脳の医学・生物学研究会」	8 月 1 日
6)	第 20 回日本病態プロテアーゼ学会学術集会	8 月 21,22 日
7)	第 17 回応用薬理シンポジウム	9 月 4,5 日
8)	創薬薬理フォーラム第 23 回シンポジウム	9 月 16,17 日
9)	第 45 回日本神経精神薬理学会 /第 37 回日本生物学的精神医学会合同年会	9 月 24～26 日
10)	第 9 回日本緩和医療薬学会年会	10 月 2～4 日
11)	第 1 回ゼブラフィッシュ創薬研究会	11 月 6 日
12)	第 9 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム	11 月 7,8 日
13)	日本薬物動態学会第 30 回年会	11 月 12～14 日
14)	第 8 回排尿障害モデル動物研究会	12 月 4 日
15)	「ヒューマン・ケア心の絆プロジェクト」活動報告会	11 月～12 月
16)	第 60 回「脳の医学・生物学研究会」	平成 28 年 1 月 23 日
17)	第 25 回神経行動薬理若手研究者の会	3 月 8 日

6．会議等の開催状況（平成 27 年年会から平成 28 年年会前まで）

総　　会	平成 27 年度通常総会	平成 27 年 3 月 18 日	（名古屋）
学術評議員会	平成 27 年度	平成 27 年 3 月 18 日	（名古屋）
理　事　会	平成 27 年度 第 3 回	平成 27 年 5 月 30 日	（東京）
	第 4 回	12 月 12 日	（東京）
	平成 28 年度 第 1 回	平成 28 年 2 月 15 日	（書面決議）
	第 2 回	3 月 8 日	（横浜）
WCP2018 組織委員会	平成 27 年度 第 1 回	平成 27 年 3 月 19 日	（名古屋）
	第 2 回	9 月 6 日	（東京）
総務委員会	平成 27 年度 第 1 回	平成 27 年 11 月 9 日	（東京）
	持ち回り開催		
財務委員会	平成 27 年度 第 1 回	平成 27 年 11 月 19 日	（東京）
予算案検討ワーキング		11 月 18 日	（東京）
	持ち回り開催		
	会　計　監　査	平成 28 年 1 月 14 日	（東京）
		1 月 22 日,26 日,27 日	（東京）
	監　事　監　査	平成 28 年 2 月 9 日	（東京）
編集委員会	平成 27 年度 第 1 回	平成 27 年 3 月 19 日	（名古屋）
研究推進委員会	持ち回り開催		
広報委員会	平成 27 年度 第 1 回	平成 27 年 3 月 19 日	（名古屋）
	持ち回り開催		
企画教育委員会	平成 28 年度 第 1 回	平成 28 年 1 月 19 日	（東京）
次世代の会	平成 27 年度 第 1 回	平成 27 年 3 月 19 日	（名古屋）
賞等選考委員会	平成 27 年度 第 1 回	平成 27 年 10 月 3 日	（東京）
年会学術企画委員会	平成 27 年度 第 1 回	平成 27 年 5 月 2 日	（東京）
	平成 28 年度 第 1 回	平成 28 年 2 月 15 日	（東京）
江橋賞選考委員会	平成 27 年度 第 1 回	平成 27 年 10 月 23 日	（東京）
利益相反(COI)委員会	平成 27 年度 第 1 回	平成 27 年 11 月 9 日	（東京）
「賞の在り方」諮問委員会	平成 28 年度 第 1 回	平成 28 年 3 月 1 日	（京都）

7．会員状況（平成 27 年 12 月 31 日現在）

会員数および異動状況（下段は前年度との差）

代議員 （正会員に含む）	名誉会員	永年会員	正会員		総数
			学術評議員	一般会員	
１３５	１０９	８４	１，３２８	３，１０９	４，６３０
－４	＋１	＋１	－２１	－７５	－９４

新入会者数：456 名，退会者数：550 名（逝去者，会費未納除籍者含む）

平成 27 年度事業報告には，「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない．

Ⅲ．平成 27 年度決算報告

独立監査人の監査報告書

平成 28 年 2 月 9 日

公益社団法人　日 本 薬 理 学 会
　　理事長　飯野　正光　殿

中村公認会計士事務所
公認会計士　　中村　友理香　　㊞

＜財務諸表監査＞

私は，公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に準じ，公益社団法人日本薬理学会の平成 27 年 1 月 1 日から平成 27 年 12 月 31 日までの平成 27 年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドラインⅠ－5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう.）並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し，併せて，正味財産増減計算書内訳表(以下，これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という.）について監査を行った.

財務諸表に対する理事者の責任

理事者の責任は,我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある．これには，不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる.

監査人の責任

私の責任は，私が実施した監査に基づいて，独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある．私は，我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った．監査の基準は，私に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために，監査計画を策定し，これに基づき監査を実施することを求めている.

監査においては，財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される．監査手続は，私の判断により，不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される．財務諸表監査の目的は，内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが，私は，リスク評価の実施に際して，状況に応じた適切な監査手続を立案するために，財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する．また，監査には，理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体として財務諸表等の表示を検討することが含まれる.

私は，意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している.

監査意見

私は，上記の財務諸表等が，我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して，当該財務諸表等に係る期間の財産，損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める.

＜財産目録に対する意見＞

私は，公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に準じ，公益社団法人日本薬理学会の平成 27 年 12 月 31 日現在の平成 27 年度の財産目録（「貸借対照表科目」，「金額」及び「使用目的等」の欄に限る．以下同じ．）について監査を行った．

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は，財産目録を，我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに，公益認定関係書類と整合して作成することにある．

監査人の責任

私の責任は，財産目録が，我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており，公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある．

財産目録に対する監査意見

私は，上記の財産目録が，我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており，公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める．

利害関係

公益社団法人日本薬理学会と私との間には，公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない．

以　上

監 査 報 告 書

公益社団法人 日 本 薬 理 学 会
理事長　飯 野　正 光　殿

平成 28 年 2 月 9 日

公益社団法人日 本 薬 理 学 会

監事　　木村　純子　㊞

監事　　玉置　俊晃　㊞

私たちは，平成 27 年 1 月 1 日から平成 27 年 12 月 31 日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い，次のとおり報告する．

１　監査の方法の概要

(1)　会計監査について，帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて，財務諸表並びに収支計算書の正確性を検討した．

(2)　業務監査について，理事会及びその他の会議に出席し，理事から業務の報告を聴取し，関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した．

２　監査意見

(1)　貸借対照表，正味財産増減計算書，財産目録及び収支計算書は，会計帳簿の記載金額と一致し，法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める．

(2)　事業報告書の内容は，真実であると認める．

(3)　理事の業務執行に関する不整の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な過失はないと認める．

貸借対照表

平成27年12月31日現在　　(単位:円)

科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　資産の部			
1. 流動資産			
現　　金	978,209	298,346	679,863
預 貯 金	24,357,131	25,699,929	△ 1,342,798
未収入金	16,280,885	5,425,328	10,855,557
前 払 金	4,252,148	1,963,771	2,288,377
貯 蔵 品	4,585	9,129	△ 4,544
流動資産合計	45,872,958	33,396,503	12,476,455
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
薬理学基金	40,000,000	40,000,000	0
退職給付引当資産	0	2,284,000	△ 2,284,000
国際基金	4,353,628	4,476,528	△ 122,900
振興基金			
学術講演基金	31,716,390	34,092,141	△ 2,375,751
刊行基金	18,535,627	18,535,627	0
褒賞基金	22,810,905	25,074,679	△ 2,263,774
年会開催資産	450,000	0	450,000
公開講座開催資産	1,100,018	1,400,028	△ 300,010
国際情報発信強化資産	1,708,753	2,116,111	△ 407,358
特定資産合計	120,675,321	127,979,114	△ 7,303,793
(2) その他固定資産			
ソフトウェア	607,408	995,803	△ 388,395
電話加入権	2	398,352	△ 398,350
保 証 金	1,572,000	1,572,000	0
投資有価証券	20,094,043	20,136,380	△ 42,337
長期貸付金	693,342	458,562	234,780
その他固定資産合計	22,966,795	23,561,097	△ 594,302
固定資産合計	143,642,116	151,540,211	△ 7,898,095
資 産 合 計	189,515,074	184,936,714	4,578,360
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
前 受 金	868,500	1,376,840	△ 508,340
未 払 金	9,544,698	5,509,417	4,035,281
預 り 金	514,240	7,460,345	△ 6,946,105
流動負債合計	10,927,438	14,346,602	△ 3,419,164
2. 固定負債			
退職給付引当金	0	2,284,000	△ 2,284,000
固定負債合計	0	2,284,000	△ 2,284,000
負 債 合 計	10,927,438	16,630,602	△ 5,703,164
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
受取補助金等	2,808,771	3,516,139	△ 707,368
受取寄付金	450,000	0	450,000
指定正味財産合計	3,258,771	3,516,139	△ 257,368
(うち特定資産への充当額)	(3,258,771)	(3,516,139)	(△257,368)
2. 一般正味財産	175,328,865	164,789,973	10,538,892
(うち特定資産への充当額)	(117,416,550)	(122,178,975)	(△4,762,425)
正味財産合計	178,587,636	168,306,112	10,281,524
負債及び正味財産合計	189,515,074	184,936,714	4,578,360

正味財産増減計算書

平成27年1月1日から平成27年12月31日まで　　(単位:円)

科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
①　特定資産運用益	63,809	149,997	△ 86,188
薬理学基金受取利息	30,200	23,652	6,548
国際基金受取利息	2,016	1,398	618
振興基金受取利息	31,593	124,947	△ 93,354
②　受取会費	51,552,000	55,392,500	△ 3,840,500
一般会員会費	21,016,000	22,024,500	△ 1,008,500
学術評議員会費	19,556,000	21,788,000	△ 2,232,000
賛助会員会費	10,980,000	11,580,000	△ 600,000
③　事業収益	95,751,210	89,048,035	6,703,175
学術集会費収益	63,905,925	55,053,800	8,852,125
購読料収益	998,390	2,344,826	△ 1,346,436
論文掲載料収益	20,322,875	16,982,504	3,340,371
論文別刷料収益	2,423,406	3,252,322	△ 828,916
広告掲載料収益	7,825,680	11,343,160	△ 3,517,480
予稿集売上等収益	274,934	71,423	203,511
④　受取補助金等	13,143,121	13,664,017	△ 520,896
学術集会補助金	3,035,300	4,700,000	△ 1,664,700
指定正味財産からの振替額	10,107,821	8,964,017	1,143,804
⑤　受取寄付金	15,073,887	16,714,005	△ 1,640,118
学術集会賛助金	15,049,887	14,550,000	499,887
一般寄付金	24,000	24,001	△ 1
指定正味財産からの振替額	0	2,140,004	△ 2,140,004
⑥　雑　収　益	394,149	529,368	△ 135,219
受取利息	63,981	59,368	4,613
雑　収　益	330,168	470,000	△ 139,832
経常収益計	175,978,176	175,497,922	480,254
(2)経常費用			
①　事　業　費	142,245,239	152,975,875	△ 10,730,636
給与手当	2,246,486	2,399,257	△ 152,771
法定福利費	339,206	389,670	△ 50,464
退職給付費用	406,545	71,550	334,995
事務所借料	500,255	446,356	53,899
会　場　費	31,095,020	21,741,337	9,353,683
旅費・通信交通費	7,506,564	14,460,831	△ 6,954,267
印　刷　費	6,657,930	10,254,684	△ 3,596,754
会　議　費	4,287,848	3,940,785	347,063
謝金・その他	13,690,455	8,689,212	5,001,243
懇親会費	11,265,563	8,389,102	2,876,461
編集・刊行費	31,956,000	51,105,829	△ 19,149,829
国際情報発信強化費	8,707,793	7,563,984	1,143,809
学術事業協力費	452,900	117,570	335,330
副　　賞	1,198,600	1,197,250	1,350
消耗品費	764,419	0	764,419
業務委託費	19,530,680	20,726,358	△ 1,195,678
租税公課	1,568,100	1,387,600	180,500
減価償却費	70,875	94,500	△ 23,625

科　目	当年度	前年度	増　減
② 管 理 費	22,795,695	24,375,139	△ 1,579,444
給与手当	5,997,111	8,429,268	△ 2,432,157
法定福利費	1,017,622	1,342,197	△ 324,575
退職給付費用	1,219,637	246,450	973,187
事務所借料	1,500,769	1,540,772	△ 40,003
旅費・通信交通費	2,629,899	3,349,849	△ 719,950
印 刷 費	466,695	565,242	△ 98,547
会 議 費	514,609	458,048	56,561
リース料	33,566	33,566	0
消耗品費	664,301	1,196,969	△ 532,668
支払手数料	748,683	1,015,954	△ 267,271
慶弔費	254,091	435,856	△ 181,765
臨時雇賃金	851,886	101,538	750,348
業務委託費	5,345,824	4,748,620	597,204
租税公課	4,200	112,600	△ 108,400
減価償却費	317,520	269,010	48,510
選 挙 費	1,040,694	6,700	1,033,994
雑　費	188,588	522,500	△ 333,912
経常費用計	165,040,934	177,351,014	△ 12,310,080
評価損益等調整前当期経常増減額	10,937,242	△ 1,853,092	12,790,334
基本財産評価損益等			
特定資産評価損益等			
投資有価証券評価損益等			
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	10,937,242	△ 1,853,092	12,790,334
2. 経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
電話加入権減損損失	398,350	0	398,350
経常外費用計	398,350	0	398,350
当期経常外増減額	△ 398,350	0	△ 398,350
当期一般正味財産増減額	10,538,892	△ 1,853,092	12,391,984
一般正味財産期首残高	164,789,973	166,643,065	△ 1,853,092
一般正味財産期末残高	175,328,865	164,789,973	10,538,892
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取補助金等	9,400,000	8,900,000	500,000
受取寄付金	450,000	0	450,000
特定資産受取利息	453	421	32
一般正味財産への振替額	△ 10,107,821	△ 11,104,021	996,200
当期指定正味財産増減額	△ 257,368	△ 2,203,600	1,946,232
指定正味財産期首残高	3,516,139	5,719,739	△ 2,203,600
指定正味財産期末残高	3,258,771	3,516,139	△ 257,368
Ⅲ 正味財産期末残高	178,587,636	168,306,112	10,281,524

正味財産増減計算書内訳表

平成27年1月1日から平成27年12月31日まで　　(単位:円)

	公益目的事業会計						収益事業等会計	法人会計	内部取引消去	合 計
	公1 学術集会等開催	公2 刊 行	公3 褒 賞	公4 連 携	共 通	小 計				
Ⅰ一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1)経常収益										
特定資産運用益						48,709		15,100		63,809
薬理学基金受取利息					15,100	15,100		15,100		30,200
国際基金受取利息				2,016		2,016				2,016
振興基金受取利息	13,780	8,066	9,747			31,593				31,593
受取会費						25,776,000		25,776,000		51,552,000
一般会員会費					10,508,000	10,508,000		10,508,000		21,016,000
学術評議員会費					9,778,000	9,778,000		9,778,000		19,556,000
賛助会員会費					5,490,000	5,490,000		5,490,000		10,980,000
事業収益						95,900,210				95,751,210
学術集会費収益	64,054,925					64,054,925			△ 149,000	63,905,925
購読料収益		998,390				998,390				998,390
論文掲載料収益	2,001,000	18,321,875				20,322,875				20,322,875
論文別刷料収益		2,423,406				2,423,406				2,423,406
広告掲載料収益		7,825,680				7,825,680				7,825,680
予稿集売上等収益	274,934					274,934				274,934
受取補助金等						13,143,121				13,143,121
学術集会補助金	3,035,300					3,035,300				3,035,300
指定正味財産からの振替額	1,400,028	8,707,793				10,107,821				10,107,821
受取寄付金						15,049,887		24,000		15,073,887
学術集会賛助金	15,049,887					15,049,887				15,049,887
一般寄付金						0		24,000		24,000
雑収益						32,850		361,299		394,149
受取利息	1,719				31,131	32,850		31,131		63,981
雑収益						0		330,168		330,168
経常収益計	85,831,573	38,285,210	9,747	2,016	25,822,231	149,950,777	0	26,176,399	△ 149,000	175,978,176
(2)経常費用										
事業費										
給与手当	1,381,127	453,180	412,179			2,246,486				2,246,486
法定福利費	203,524	67,841	67,841			339,206				339,206
退職給付費用	243,927	81,309	81,309			406,545				406,545
事務所借料	300,153	100,051	100,051			500,255				500,255
会場費	31,095,020					31,095,020				31,095,020
旅費・通信交通費	6,954,589	68,275	483,700			7,506,564				7,506,564
印刷費	6,657,930					6,657,930				6,657,930
会議費	4,083,188	68,666	135,994			4,287,848				4,287,848
謝金・その他	13,244,975		445,480			13,690,455				13,690,455
懇親会費	11,265,563					11,265,563				11,265,563
編集・刊行費		31,956,000				31,956,000				31,956,000
国際情報発信強化費		8,707,793				8,707,793				8,707,793
学術事業協力費				452,900		452,900				452,900
副 賞			1,198,600			1,198,600				1,198,600
消耗品費		764,419				764,419				764,419
業務委託費	16,553,688	2,976,992				19,530,680				19,530,680
租税公課	621,100	947,000				1,568,100				1,568,100
減価償却費	70,875					70,875				70,875
事業費計	92,675,659	46,191,526	2,925,154	452,900	0	142,245,239	0	0	0	142,245,239
管理費										
給与手当								5,997,111		5,997,111
法定福利費								1,017,622		1,017,622
退職給付費用								1,219,637		1,219,637
事務所借料								1,500,769		1,500,769
旅費・通信交通費								2,629,899		2,629,899
印刷費								466,695		466,695
会議費								514,609		514,609
リース料								33,566		33,566
消耗品費								664,301		664,301
支払手数料								748,683		748,683
慶弔費								393,091	△ 139,000	254,091
臨時雇賃金								851,886		851,886
業務委託費								5,345,824		5,345,824
租税公課								4,200		4,200
減価償却費								317,520		317,520
選挙費								1,040,694		1,040,694
雑 費								198,588	△ 10,000	188,588
管理費計								22,944,695	△ 149,000	22,795,695
経常費用計	92,675,659	46,191,526	2,925,154	452,900	0	142,245,239	0	22,944,695	△ 149,000	165,040,934
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 6,844,086	△ 7,906,316	△ 2,915,407	△ 450,884	25,822,231	7,705,538	0	3,231,704	0	10,937,242
基本財産評価損益等										
特定資産評価損益等										
投資有価証券評価損益等										
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 6,844,086	△ 7,906,316	△ 2,915,407	△ 450,884	25,822,231	7,705,538	0	3,231,704	0	10,937,242
2. 経常外増減の部										
(1)経常外収益										
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用										
電話加入権減損損失					99,588	99,588		298,762		398,350
経常外費用計	0	0	0	0	99,588	99,588	0	298,762	0	398,350
当期経常外増減額	0	0	0	0	△ 99,588	△ 99,588	0	△ 298,762	0	△ 398,350
他会計振替額										
当期一般正味財産増減額	△ 6,844,086	△ 7,906,316	△ 2,915,407	△ 450,884	25,722,643	7,605,950	0	2,932,942	0	10,538,892
一般正味財産期首残高						96,664,460	0	68,125,513	0	164,789,973
一般正味財産期末残高						104,270,410	0	71,058,455	0	175,328,865
Ⅱ 指定正味財産増減の部										
受取補助金等	1,100,000	8,300,000				9,400,000	0	0	0	9,400,000
受取寄付金	450,000					450,000	0	0	0	450,000
特定資産受取利息	18	435				453	0	0	0	453
一般正味財産への振替額										
一般正味財産への振替額	△ 1,400,028	△ 8,707,793				△ 10,107,821	0	0	0	△ 10,107,821
当期指定正味財産増減額	149,990	△ 407,358				△ 257,368	0	0	0	△ 257,368
指定正味財産期首残高	1,400,028	2,116,111				3,516,139	0	0	0	3,516,139
指定正味財産期末残高	1,550,018	1,708,753				3,258,771	0	0	0	3,258,771
Ⅲ 正味財産期末残高						107,529,181		71,058,455	0	178,587,636

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券は，償却原価法（定額法）による．

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品は1冊を1円として評価している．

(3) 固定資産の減価償却の方法

定額法による．

(4) 引当金の計上基準

・賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため，支給見込み額のうち当事業年度に帰属する額を計上している．

・退職給付引当金

職員の退職金の支給に備えるため，期末自己都合要支給額から中退共より支給される金額を控除した金額を計上している．

(5) 外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は，期末日の直物為替相場により円貨に換算し，換算差額は損益として処理している．

(6) リース取引の処理方法

会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引は,引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている．

(7) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は，税込方式によっている．

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである．

特定資産　（単位:円）

科　　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
薬理学基金	40,000,000	0	0	40,000,000
退職給付引当資産	2,284,000	0	2,284,000	0
国際基金	4,476,528	0	122,900	4,353,628
振興基金				
学術講演基金	34,092,141	8,376,390	10,752,141	31,716,390
刊行基金	18,535,627	0	0	18,535,627
褒賞基金	25,074,679	12,810,905	15,074,679	22,810,905
年会開催資産	0	450,000	0	450,000
公開講座開催資産	1,400,028	1,100,018	1,400,028	1,100,018
国際情報発信強化資産	2,116,111	8,300,435	8,707,793	1,708,753
合　　計	127,979,114	31,037,748	38,341,541	120,675,321

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は次のとおりである．

特定資産　（単位:円）

科　　目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
薬理学基金	40,000,000	0	(40,000,000)	－
国際基金	4,353,628	0	(4,353,628)	－
振興基金				
学術講演基金	31,716,390	0	(31,716,390)	－
刊行基金	18,535,627	0	(18,535,627)	－
褒賞基金	22,810,905	0	(22,810,905)	－
年会開催資産	450,000	(450,000)	0	－
公開講座開催資産	1,100,018	(1,100,018)	0	－
国際情報発信強化資産	1,708,753	(1,708,753)	0	－
合　　計	120,675,321	(3,258,771)	(117,416,550)	0

4. 固定資産の取得価額，減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額，減価償却累計額及び当期末残高は，次のとおりである．

（単位:円）

科　　目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
ソフトウエア	2,060,100	1,452,692	607,408
合　　計	2,060,100	1,452,692	607,408

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額，時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額，時価及び評価損益は，次のとおりである．

（単位:円）

科　　目	帳簿価額	時　　価	評価損益
国　　債	60,094,043	60,307,559	213,516
合　　計	60,094,043	60,307,559	213,516

6. 補助金等の内訳並びに交付者，当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者，当期の増減額及び残高は，次のとおりである．

（単位:円）

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
国際情報発信強化補助金	日本学術振興会	2,116,111	8,300,000	8,707,358	1,708,753	指定正味財産
科学研究費公開講座補助金	日本学術振興会	1,400,028	1,100,000	1,400,010	1,100,018	指定正味財産
国内学会等開催費用援助金（第88回年会）	公益信託加藤記念難病研究助成基金	0	500,000	500,000	0	
学会等開催助成（第88回年会）	(公財)大幸財団	0	160,000	160,000	0	
海外学者招聘助成金（第88回年会）	(公財)内藤記念科学振興財団	0	500,000	500,000	0	
学会研究助成金等（第88回年会）	(公財)中冨健康科学振興財団	0	1,000,000	1,000,000	0	
コンベンション開催サポート託児室支援金（第88回年会）	名古屋国際会議場	0	85,300	85,300	0	
学術会議等開催支援（第66回北部会）	(公財)日本教育公務員弘済会富山支部	0	160,000	160,000	0	
高等教育振興事業（第66回北部会）	(公財)富山県人づくり財団	0	200,000	200,000	0	
学術会議等開催支援（第66回北部会）	富山市	0	100,000	100,000	0	
学術会議等開催支援（第132回関東部会）	明海大学	0	300,000	300,000	0	
学術会議等開催支援（第132回関東部会）	明海大学歯学部同窓会	0	30,000	30,000	0	
合　　計		3,516,139	12,435,300	13,142,668	2,808,771	

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は，次のとおりである．

（単位:円）

内　容	金　額
経常収益への振替額	
目的達成による指定解除（受取補助金）	10,107,821

8. 減損損失関係

以下の固定資産について減損損失を計上している．

種類	電話加入権
場所	事務局
減損損失の金額	398,350円

（評価金額の算定方法）

備忘価額を残して減損処理をしている．

附属明細書

1　基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである.

特定資産　　(単位:円)

科　　目	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
薬理学基金	投資有価証券・第118回利付国債	20,000,000	0	0	20,000,000
	定期預金(三菱東京UFJ・本郷)	20,000,000	0	0	20,000,000
退職給付引当資産	普通預金(みずほ・本郷)	2,284,000	0	2,284,000	0
国際基金	普通預金(三菱東京UFJ・本郷)	4,476,528	0	122,900	4,353,628
振興基金					
学術講演基金	投資有価証券・第341回利付国債	20,000,000	0	10,000,000	10,000,000
	普通預金(みずほ・本郷)	752,141	0	752,141	0
	ゆうちょ通常貯金	0	8,376,390		8,376,390
	定期預金(三菱東京UFJ・本郷)	13,340,000	0	0	13,340,000
刊行基金	定期預金(みずほ・本郷)	10,000,000	0	0	10,000,000
	普通預金(みずほ・本郷)	8,535,627	0	0	8,535,627
褒賞基金	普通預金(三菱東京UFJ・本郷)	5,074,679	0	5,074,679	0
	投資有価証券・第88回利付国債	10,000,000	0	10,000,000	0
	投資有価証券・第341回利付国債	0	10,000,000	0	10,000,000
	ゆうちょ定期貯金	10,000,000	0	0	10,000,000
	ゆうちょ通常貯金	0	2,810,905	0	2,810,905
年会開催資産	普通預金(みずほ・本郷)	0	450,000	0	450,000
公開講座開催資産	普通預金(みずほ・本郷)	1,400,028	1,100,018	1,400,028	1,100,018
国際情報発信強化資産	普通預金(三菱東京UFJ・本郷)	2,116,111	8,300,435	8,707,793	1,708,753
	特定資産計	127,979,114	31,037,748	38,341,541	120,675,321

2　引当金の明細

退職給付引当金　　(単位：円)

科　　目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	2,284,000	0	2,284,000		0

財 産 目 録

平成27年12月31日現在

（単位:円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
（流動資産）	現　　金	手元保管	運転資金として	978,209
	預　貯　金	普通預金・三菱東京UFJ銀行本郷支店	運転資金として	15,398,552
		普通預金・みずほ銀行本郷支店	運転資金として	172
		ゆうちょ銀行通常貯金	運転資金として	302,966
		ゆうちょ銀行振替貯金	運転資金として	8,655,441
			＜現金・預貯金計＞	**25,335,340**
	未 収 入 金	収納代行会社	会費収納代行会社の年度末の残高である	622,000
		一般会員会費　(14名分)	規則で定められた会員の要支払会費額である	82,000
		学術評議員会費(87名分)	同　上	1,308,000
		部会補助金等	学術集会事業の未収分である	15,000
		購 読 料	刊行事業の未収分である	72,000
		掲 載 料	同　上	11,588,195
		論文別刷料	同　上	1,574,100
		広告掲載料	同　上	935,280
		ﾊﾞｯｸﾅﾝﾊﾞｰ売上金	既刊雑誌の売上未収分である	84,310
			＜未収入金計＞	**16,280,885**
	前　払　金	第89回年会,第90回年会	年会開催事業への学会交付金である	4,200,000
		会議室料等	公益目的事業の委員会会議室の予約料である	52,148
			＜前払金計＞	**4,252,148**
	貯　蔵　品	既刊誌(2014, 2015年)	既刊雑誌の在庫数である	4,585
			＜貯蔵品計＞	**4,585**
流動資産合計				**45,872,958**
（固定資産）	薬理学基金	投資有価証券第118回利付国債	運用益を公益目的事業と管理目的の財源として使用している	20,000,000
特定資産		定期預金・三菱東京UFJ銀行本郷支店		20,000,000
			＜薬理学基金計＞	**40,000,000**
	国際基金	普通預金・三菱東京UFJ銀行本郷支店	海外の学会との連携事業の原資である	4,353,628
			＜国際基金計＞	**4,353,628**
	振興基金			
	学術講演基金	投資有価証券第341回利付国債	科研費補助金を受けないで開催する市民公開講座，及び新薬理学セミナー開催事業等の原資である	10,000,000
		定期預金・三菱東京UFJ銀行本郷支店		13,340,000
		ゆうちょ銀行通常貯金		8,376,390
			＜学術講演基金計＞	**31,716,390**
	刊行基金	定期預金・みずほ銀行本郷支店	刊行事業，薬理学に関する研究及び調査事業の原資である	10,000,000
		普通預金・三菱東京UFJ銀行本郷支店		440,035
		普通預金・みずほ銀行本郷支店		8,095,592
			＜刊行基金計＞	**18,535,627**
	褒賞基金	投資有価証券第341回利付国債	研究業績を表彰する事業の原資である	10,000,000
		ゆうちょ定期貯金		10,000,000
		ゆうちょ銀行通常貯金		2,810,905
			＜褒賞基金計＞	**22,810,905**
	年会開催資産	普通預金・みずほ銀行本郷支店	第89回年会開催事業の寄付金である	450,000
			＜年会開催資産計＞	**450,000**
	公開講座開催資産	普通預金・みずほ銀行本郷支店	科研費の補助金とその利息である	1,100,018
			＜公開講座開催資産計＞	**1,100,018**
	国際情報発信強化資産	普通預金・三菱東京UFJ銀行本郷支店	科研費の補助金である	1,708,753
			＜国際情報発信強化資産計＞	**1,708,753**
			＜特定資産合計＞	**120,675,321**

その他固定資産	ソフトウェア	会員管理システム	管理目的の資産である	607,408
	電話加入権	電話回線 2台	公益目的事業に使用する財産である	2
	保証金	㈱学会センタービル	(共用財産)	1,572,000
			うち公益目的事業財産25%	393,000
			うち管理目的として使用する財産75%	1,179,000
	投資有価証券	第113回利付国債	公益目的事業及び管理目的として使用する資産である	20,094,043
	長期貸付金	IUPHAR2018	日本臨床薬理学会との連携機構に貸し付けたIUPHAR2018準備費用である	693,342
			＜その他固定資産計＞	**22,966,795**
固定資産合計				**143,642,116**
資産合計				**189,515,074**
(流動負債)	前受金	2016年一般会員会費(10名分)	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する次年度及び次々年度会費である.	55,500
		2016年学術評議員会費(5名分)		75,000
		2015年部会抄録掲載料(242題分)	次年度刊行雑誌の抄録掲載料及び購読料である	726,000
		2015年広告掲載料等		12,000
			＜前受金計＞	**868,500**
	未払金	福田商店代理店委託費	学会誌の広告代理店委託費等である	642,906
		社会保険料	事業主負担分	189,940
		業務委託費等	刊行事業の委託先である中西印刷㈱の業務委託費及び会計監査費用等である	7,111,852
		消費税	公益目的事業の消費税である	1,600,000
			＜未払金計＞	**9,544,698**
	預り金	職員他源泉所得税	職員給与と学術集会開催事業の謝金の源泉所得税である	398,731
		職員社会保険料等	職員から預った社会保険料及び住民税である	115,509
			＜預り金計＞	**514,240**
流動負債合計				**10,927,438**
(固定負債)			**＜固定負債合計＞**	**0**
固定負債合計				**0**
負債合計				**10,927,438**
正味財産				**178,587,636**

Ⅳ. 平成 28 年度事業計画

懸案でありました Journal of Pharmacological Sciences（JPS）と日本薬理学雑誌の二誌の委託先変更が既に完了し，平成 27 年 1 月から JPS は冊子体を廃止し全面電子ジャーナル化を行っています．これによる経費削減により，財政状況は好転しつつあります．これを契機として，学会の使命である薬理学の振興によって学術文化の発展に寄与するため，学会活動の更なる活性化を目指すことを本年度の重点目標とします．学術集会については，引き続き女性や若手研究者そして企業研究者の積極的な参画を促しつつ，活気あふれる学術集会を開催します．また，昨年度から中長期的な視点に立った年会のプログラム構成を企画する体制を開始しましたが，これを更に拡充して他学会所属の研究者にもアピールできる学術集会を目指して行きます．２年後に控える第 18 回国際薬理学臨床薬理学会議（WCP2018）の京都開催を，学会の更なる発展およびグローバル化の好機と捉え，これを成功させるための方策をとってまいります．具体的には，日本臨床薬理学会をはじめとした国内学会との協力，国際薬理学連合（IUPHAR）およびアジア・オセアニア各国との連携，昨年度合意された米国と英国の薬理学会との新たな連携の着実な実施と強化を進めてまいります．国際連携が重要な課題となっており，中長期的な視点からの対応ができるように体制を整えます．学会機関誌については，編集委員会ならびに広報委員会を中心に更なる質の向上に尽力します．特に，国際情報発信強化助成金を用いた JPS の国際誌としてのレベルアップと学会ホームページの充実を一層進めてまいります．本会の更なる発展を目指すため，会員の皆様のご理解と一層のご支援ご協力をお願いいたします．

理事長　飯野　正光

１　薬理学研究の進展及び薬理学研究者育成のための学術集会及び講演会等の開催事業（公益目的事業 1）

(1) 年会の開催

第 89 回年会は，『Voyage beyond the Horizon』をテーマとし，未知の領域への果敢な挑戦によって，まだ見ぬ新たな薬理学像を創造していかなければならないという方向性を示す契機とする．薬理学の新たな展開，企業研究者の視点からの薬理学研究，若手研究者の育成，男女共同参画の推進等，本学会が取り組むべき重要なテーマに配慮をしつつ，広く会員諸氏の意見を取り入れて，有意義な年会となるよう学会一丸となって取り組む．プレナリーレクチャーは 2015 年ノーベル生理学・医学賞受賞者の大村 智氏（北里大学特別栄誉教授）が「求めていなければ授からないーエバーメクチン物語ー」を講演する．内外の研究者 10 名がそれぞれ特別講演を行う．JPS と ASPET の講師交換プログラムによる講演，教育セミナー4 件，年会企画シンポジウム 9 題，JPS サテライトシンポジウム 1 題，企業企画シンポジウム 2 題，次世代の会シンポジウム 2 題，年会企画ワークショップ 3 題，日本毒性学会，日本生理学会との各共催シンポジウムを計画している．

・第 89 回 日本薬理学会年会　　年会長：石井 邦雄(北里大学･薬)
平成 28 年 3 月 9 日～11 日　パシフィコ横浜 会議センター

(2) 地方部会の開催

6 回の地方部会を開催する．ランチョンセミナー等多彩な企画を予定している．

・第 129 回 日本薬理学会近畿部会　　部会長：小澤光一郎（広島大学･院･医歯薬保健）
平成 28 年 6 月 24 日　広島市民文化交流会館

・第 134 回 日本薬理学会関東部会　　部会長：武田　弘志（国際医療福祉大学･薬）
平成 28 年 7 月 9 日　国際医療福祉大学

・第 67 回 日本薬理学会北部会　　部会長：三輪　聡一（北海道大学･院･医）
平成 28 年 9 月 30 日　北海道大学学術交流会館

・第 135 回 日本薬理学会関東部会　　部会長：梅村　和夫（浜松医科大学･医）
平成 28 年 10 月 8 日　アクトシティ浜松

・第 130 回 日本薬理学会近畿部会　　部会長：金子　周司（京都大学･院･薬）
平成 28 年 11 月 19 日　京都大学

・第 69 回 日本薬理学会西南部会　　部会長：荒木　博陽（愛媛大学病院）
平成 28 年 11 月 26 日　松山総合コミュニティセンター

(3) 市民公開講座の開催

科学的で正確な薬理学的知識に基づいて，薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動の一環として年会,地方部会と連動して3回の市民公開講座を開催する予定である.

・公開講座(第89回年会)　平成28年3月12日，北里大学薬学部コンベンションホール（東京都港区）

『薬の過去・現在・未来～その役割の変遷～』　講師：池谷 裕二（東京大学･院･薬），本田 一男（元昭和大学・薬）

・地方部会に合わせて2回開催の予定

(4) 新薬理学セミナーの開催

新薬理学セミナーは，講演や実習を通じて会員の薬理学研究に関する知識や技術の向上を図るとともに，会員間の人材交流の場を提供することを目的とする．地方部会活性化の一助とすべく，春季ならびに秋季に開催される部会と連動して開催する．開催日は部会開催と同日またはその前後日とし，会場は部会長が所属する大学・機関の施設（講堂，教室，実習室，研究室等）や近郊施設を利用する．本セミナーは，会員，特に若手会員のキャリア開発を支援することにより，薬理学研究の益々の発展に資する意義ある企画である.

・新薬理学セミナー2016（地方部会と同日またはその前後日に2回開催の予定）

2　薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及を目的とし，学会誌等を刊行する事業（公益目的事業2）

(1) Journal of Pharmacological Sciencesを全面電子体のオープンアクセス誌として刊行する.

・2016年刊行予定：130巻1～4号，131巻1～4号，132巻1～4号，Supplement（The 89th Annual Meeting）

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとからだ／ファーマコロジカ）の刊行

・2016年刊行予定：147巻1～6号，148巻1～6号　計12冊

(3) 会員相互の情報交換のために8月に会員名簿を発行する.

3　優れた業績をあげた研究者の表彰及び研究の一層の飛躍を期待した研究奨励のために，各賞を設置し，研究者と研究業績を表彰する事業（公益目的事業3）

(1) 江橋節郎賞

日本薬理学会名誉会員故江橋節郎先生の生命科学への貢献を末永く顕彰するため，江橋節郎賞を創設し，独創的，飛躍的な業績をあげ，薬理学の進歩に大きく貢献した研究者に授与する.

・第9回江橋節郎賞受賞者の受賞講演は，第89回年会二日目の平成28年3月10日に行われる.

森　泰生（京都大学大学院地球環境学堂及び工学研究科）

『Ca^{2+}チャネルの分子実体の同定とそれを基盤とする薬理・生理学的探究』

・第10回江橋節郎賞は5月末日までに募集の公告をし，推薦の締切は8月末日，江橋節郎賞選考委員会の選考を経て理事会で決定する.

(2) 学術奨励賞

薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し，将来発展の期待される研究者に学術奨励賞を授与する.

・第31回学術奨励賞受賞者3名の受賞講演は，第89回年会二日目の平成28年3月10日に行われる.

青木　友浩（京都大学医学部次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点）

『トランスレーショナルリサーチとしての脳動脈瘤形成機序の薬理学的研究』

小坂田文隆（名古屋大学大学院創薬科学研究科細胞薬効解析学）

『新規狂犬病ウイルストレーシング法による神経回路の構造・機能・再生の解明』

中野　大介（香川大学医学部形態機能医学講座薬理学）

『腎臓病進展における病態生理の解明と治療戦略の構築』

・第32回学術奨励賞は5月末日までに募集の公告をし，推薦の締切は8月末日，賞等選考委員会の選考を経た3件以内の候補者について理事会が決定する.

(3) JPS 優秀論文賞

過去3年間に JPS に掲載された論文の中で引用回数の多い順に毎年約 10 編の中から特に優れたものを選出し,その著者に JPS 優秀論文賞を授与する．受賞者には第 89 回年会三日目の JPS サテライトシンポジウムで講演を行ってもらう予定である．

・第 20 回 JPS 優秀論文賞受賞 3 編の授与式は第 89 回年会二日目の平成 28 年 3 月 10 日に行われる．

・第 21 回 JPS 優秀論文賞（本賞授賞の趣旨に則り）3 編以内を決定する．

(4) 年会優秀発表賞

年会学術集会への優れた発表を促し，学問的情報発信の場としての役割を高めるために第 89 回年会で一般演題の中から優秀な発表に対して，10～20 件の年会優秀発表賞を授与する．

(5) 第 89 回年会の学生セッションにおいて，学生のすべての演題を対象とした学生優秀発表賞の選考を行う．

4　薬理学及びわが国学術文化の進展・発展への寄与を目的とした，内外の関連学術団体との連携及び協力事業（公益目的事業 4）

(1) 日本学術会議との連携

日本学術会議協力学術研究団体の一員である本会は，日本学術会議国際対応分科会の活動として国際連携を推進する．

(2) 生物科学学会連合との連携

加盟団体と情報を共有して「生物科学」の健全な発展に協力するために，定例会議に出席する．

(3) 国内の関連学術団体と連携して第 89 回年会で共催セミナー，共催シンポジウムを開催する．

・日本臨床薬理学会との共催研究倫理セミナー「科学研究における倫理の質を高める」

・日本医学会連合との共催シンポジウム「免疫薬理―免疫疾患への革新的な治療法開発と薬理学の新たな役割」

・日本毒性学会との共催シンポジウム「ガス状分子と活性イオウによる病態制御機構の解明」

・日本生理学会との共催シンポジウム「光遺伝学や薬理遺伝学を用いた痛みの研究の最前線」

(4) IUPHAR との連携及び国際薬理・臨床薬理大会（WorldPharma）

WCP2018 京都大会に向けて WCP2018 組織委員会より，各国の薬理学会等に対してプログラム提案依頼書を送付した．本会の学術評議員からもプログラムの提案を募っている．

5　その他

1　会　員

・平成 27 年度末の会員数は平成 26 年度末の会員数 4,724 名から減少する見込みである．平成 27 年度会費より，シニア割引制度を設け退職による退会者を減少させること，海外からの入会申請を Web 申し込みとし，利便性を向上させる等の会員数維持に向けた取り組みを続けている．

2　業務執行体制の整備と強化

・代表理事 1 名，業務執行理事 3 名による執行体制で，常務理事会を開催し様々な課題に取り組んでいる．理事会の継続性を担保するために副理事長制を導入した．

3　会員及び社会に向けて

・倫理委員会規定を制定し，科学者の行動規範に反する不正行為の防止に取り組んでいる．「雑誌投稿」,「集会発表」,「役員就任資格」それぞれの利益相反ポリシーと運用細則を策定し，本会で発表される研究の透明性を確保し適正な管理に務めている．第 88 回年会の利益相反セミナー（COI セミナー）に続き，第 89 回年会で研究倫理セミナーを日本臨床薬理学会と共催し，研究者の意識向上に務める．第 88 回年会の COI セミナーは動画に撮影し，会員に公開している．

4　事務局体制について

・平成 27 年 4 月より，学会事務局は定年退職した 2 名を嘱託職員として再雇用し，運営されている．

Ⅴ．平成28年度収支予算

平成28年度収支予算

平成28年1月1日から平成28年12月31日まで

（単位：円）

	28年度予算額	27年度予算額	増　減	備　考
Ⅰ．一般正味財産増減の部				
1.経常増減の部				
(1) 経常収益				
①　特定資産運用益	(90,000)	(110,000)	(△ 20,000)	
基金運用益	90,000	110,000	△ 20,000	
②　受取会費	(50,980,000)	(53,300,000)	(△ 2,320,000)	
1　一般会員会費	20,800,000	21,520,000	△ 720,000	
2　学術評議員会費	19,500,000	20,200,000	△ 700,000	
3　賛助会員会費	10,680,000	11,580,000	△ 900,000	
③　事業収益	(93,364,800)	(86,177,400)	(7,187,400)	
1　学術集会費収益	(63,064,800)	(58,442,400)	(4,622,400)	
参加登録費	24,710,000	20,280,000	4,430,000	
器械展示料・予稿集広告料	21,088,800	18,550,400	2,538,400	
懇親会費	5,950,000	6,200,000	△ 250,000	
ランチョンセミナー	11,316,000	13,412,000	△ 2,096,000	
2　購読料	(1,100,000)	(415,000)	(685,000)	※1
3　論文掲載料	(19,700,000)	(16,320,000)	(3,380,000)	
4　論文別刷料	(1,500,000)	(1,000,000)	(500,000)	※2
5　広告掲載料	(8,000,000)	(10,000,000)	(△ 2,000,000)	
④　受取補助金等	(14,034,405)	(11,650,000)	(2,384,405)	
1　指定正味財産からの振替額	9,684,405	8,900,000	784,405	
2　学術集会補助金	4,350,000	2,750,000	1,600,000	
⑤　受取寄付金	(15,600,000)	(15,900,000)	(△ 300,000)	
学術集会賛助金	15,600,000	15,900,000	△ 300,000	
⑥　雑収益	(435,000)	(580,000)	(△ 145,000)	
受取利息等	435,000	580,000	△ 145,000	
経常収益計	**174,504,205**	**167,717,400**	**6,786,805**	
(2) 経常費用				
①　事業費	(150,971,756)	(137,663,725)	(13,308,031)	
事務所借料	1,200,051	446,400	753,651	
給与手当	4,942,500	2,482,000	2,460,500	
法定福利費	750,000	380,250	369,750	
退職給付費用	0	91,800	△ 91,800	
会場費	42,637,800	35,766,400	6,871,400	
旅費・通信交通費	6,430,000	6,165,000	265,000	
印刷費	12,410,000	12,160,000	250,000	
会議費	2,630,000	2,360,000	270,000	
謝金・その他	14,142,000	12,860,000	1,282,000	
懇親会費	6,550,000	6,700,000	△ 150,000	
編集刊行費	33,000,000	32,100,000	900,000	
国際情報発信強化費	8,584,405	7,500,000	1,084,405	
学術事業協力費	430,000	400,000	30,000	
副賞	1,750,000	1,200,000	550,000	
業務委託費	14,615,000	16,281,000	△ 1,666,000	
租税公課	900,000	700,000	200,000	
減価償却費	0	70,875	△ 70,875	

（単位:円）

	28年度予算額	27年度予算額	増 減	備 考
② 管理費	(18,012,473)	(29,386,094)	(△ 11,373,621)	
事務所借料	800,973	1,554,624	△ 753,651	
給料手当	2,657,500	8,618,000	△ 5,960,500	
法定福利費	500,000	1,309,750	△ 809,750	
退職給付費用	0	3,252,200	△ 3,252,200	
旅費･通信交通費	3,000,000	3,400,000	△ 400,000	
印刷費	600,000	700,000	△ 100,000	
会議費	700,000	500,000	200,000	
リース料	34,000	34,000	0	
消耗品費	900,000	1,000,000	△ 100,000	
支払手数料	900,000	950,000	△ 50,000	
臨時雇賃金	1,000,000	1,000,000	0	
慶弔費	400,000	500,000	△ 100,000	
業務委託費	5,400,000	4,850,000	550,000	
租税公課	20,000	100,000	△ 80,000	
減価償却費	400,000	317,520	82,480	
選挙費	500,000	1,100,000	△ 600,000	
雑 費	200,000	200,000	0	
経常費用計	**168,984,229**	**167,049,819**	**1,934,410**	
評価損益等調整前当期経常増減額	**5,519,976**	**667,581**	**4,852,395**	
基本財産評価損益等				
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
評価損益等計				
当期経常増減額	5,519,976	667,581	4,852,395	
2. 経常外増減の部				
(1)経常外収益 経常外収益計	0	0	0	
(2)経常外費用 経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	5,519,976	667,581	4,852,395	
一般正味財産期首残高	153,318,375	152,650,794	667,581	
一般正味財産期末残高	**158,838,351**	**153,318,375**	**5,519,976**	
Ⅱ 指定正味財産増減の部 ① 受取補助金等			0	
受取補助金等 ②一般正味財産への振替額	9,300,000	8,700,000	600,000	
一般正味財産への振替額	△ 9,684,405	△ 8,900,000	△ 784,405	
当期指定正味財産増減額	△ 384,405	△ 200,000	△ 184,405	
指定正味財産期首残高	3,700,000	3,900,000	△ 200,000	
指定正味財産期末残高	3,315,595	3,700,000	△ 384,405	
Ⅲ 正味財産期末残高	**162,153,946**	**157,018,375**	**5,135,571**	

※1, ※2)前年度(平成27年度)予算の事業収益の購読料及び論文別刷料は, 代理店が手数料控除後に学会に納入する金額を計上. 平成28年度予算の事業収益の購読料及び論文別刷料は, 代理店が収受した金額を計上し, 代理店手数料は編集刊行費に計上.

平成28年度収支予算書

平成28年1月1日から平成28年12月31日まで

（単位：円）

	公益目的事業会計（内訳表）						法人会計	内部取引消去	合　計
	公1 学術集会等開催	公2 刊　行	公3 褒　賞	公4 連　携	共通	小計			
Ⅰ一般正味財産増減の部									
1．経常増減の部									
(1)経常収益									
①　特定資産運用益	**0**	**0**	**0**	**0**	**70,000**	**70,000**	**20,000**		**90,000**
基金受取利息					70,000	70,000	20,000		90,000
②　受取会費	**0**	**0**	**0**	**0**	**25,490,000**	**25,490,000**	**25,490,000**		**50,980,000**
1　一般会員会費					10,400,000	10,400,000	10,400,000		20,800,000
2　学術評議員会費					9,750,000	9,750,000	9,750,000		19,500,000
3　賛助会員会費					5,340,000	5,340,000	5,340,000		10,680,000
③　事業収益	**65,264,800**	**28,100,000**	**0**	**0**	**0**	**93,364,800**	**0**		**93,364,800**
1　学術集会費収益	63,064,800	0	0	0	0	63,064,800	0		63,064,800
参加登録費	24,710,000					24,710,000	0		24,710,000
器械展示料 予稿集広告料	21,088,800					21,088,800	0		21,088,800
懇親会費	5,950,000					5,950,000	0		5,950,000
ランチョンセミナー	11,316,000					11,316,000	0		11,316,000
2　購読料	0	1,100,000	0	0	0	1,100,000	0		1,100,000
購読料		800,000				800,000	0		800,000
バックナンバー売上金		300,000				300,000	0		300,000
3　論文掲載料	2,200,000	17,500,000	0	0	0	19,700,000	0		19,700,000
和文誌掲載料		6,000,000				6,000,000	0		6,000,000
英文誌掲載料		10,500,000				10,500,000	0		10,500,000
抄録掲載料	2,200,000	1,000,000				3,200,000	0		3,200,000
4　論文別刷料	0	1,500,000	0	0	0	1,500,000	0		1,500,000
別刷料		1,200,000				1,200,000	0		1,200,000
著作権等使用料		300,000				300,000	0		300,000
5　広告掲載料	0	8,000,000	0	0	0	8,000,000	0		8,000,000
広告掲載料		8,000,000				8,000,000	0		8,000,000
④　受取補助金等	**5,450,000**	**8,584,405**	**0**	**0**	**0**	**14,034,405**	**0**		**14,034,405**
1　指定正味財産からの振替額	1,100,000	8,584,405				9,684,405	0		9,684,405
2 学術集会補助金	4,350,000					4,350,000	0		4,350,000
⑤　受取寄付金	**15,600,000**					**15,600,000**	**0**		**15,600,000**
学術集会賛助金	15,600,000					15,600,000	0		15,600,000
⑥　雑収益	**0**	**0**	**0**	**0**	**35,000**	**35,000**	**400,000**		**435,000**
受取利息等					35,000	35,000	35,000		70,000
雑収益							365,000		365,000
経常収益計	**86,314,800**	**36,684,405**	**0**	**0**	**25,595,000**	**148,594,205**	**25,910,000**		**174,504,205**
(2)経常費用						0			
①　事業費	**100,562,300**	**43,854,405**	**3,985,000**	**2,070,051**	**500,000**	**150,971,756**			**150,971,756**
1　事務所借料	800,000	100,000	200,000	100,051		1,200,051			1,200,051
2　給料手当	3,347,500	607,500	760,000	227,500		4,942,500			4,942,500
3　法定福利費	500,000	62,500	125,000	62,500		750,000			750,000
4　会場費	42,637,800					42,637,800			42,637,800
5　旅費・通信交通費	4,930,000		500,000	1,000,000		6,430,000			6,430,000
6　印刷費	12,410,000					12,410,000			12,410,000
7　会議費	2,230,000		150,000	250,000		2,630,000			2,630,000
8　謝金・その他	13,642,000		500,000			14,142,000			14,142,000
9　懇親会費	6,550,000					6,550,000			6,550,000
10　編集・刊行費		33,000,000				33,000,000			33,000,000

(単位:円)

	公益目的事業会計(内訳表)						法人会計	内部取引消去	合 計
	公1 学術集会等開催	公2 刊 行	公3 褒 賞	公4 連 携	共通	小計			
11 国際情報発信強化費		8,584,405				8,584,405			8,584,405
12 学術事業協力費				430,000		430,000			430,000
13 副 賞			1,750,000			1,750,000			1,750,000
14 業務委託費	13,115,000	1,500,000				14,615,000			14,615,000
15 租税公課	400,000				500,000	900,000			900,000
② 管理費							**18,012,473**		**18,012,473**
1 事務所借料							800,973		800,973
2 給料手当							2,657,500		2,657,500
3 法定福利費							500,000		500,000
4 旅費・通信交通費							3,000,000		3,000,000
5 印刷費							600,000		600,000
6 会議費							700,000		700,000
7 リース料							34,000		34,000
8 消耗品費							900,000		900,000
9 支払手数料							900,000		900,000
10 臨時雇賃金							1,000,000		1,000,000
11 慶弔費							400,000		400,000
12 業務委託費							5,400,000		5,400,000
13 租税公課							20,000		20,000
14 減価償却費							400,000		400,000
15 選挙費							500,000		500,000
16 雑 費							200,000		200,000
経常費用計	**100,562,300**	**43,854,405**	**3,985,000**	**2,070,051**	**500,000**	**150,971,756**	**18,012,473**		**168,984,229**
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 14,247,500	△ 7,170,000	△ 3,985,000	△ 2,070,051	25,095,000	△ 2,377,551	7,897,527		5,519,976
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0		
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0		
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0		
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0		
当期経常増減額	**△ 14,247,500**	**△ 7,170,000**	**△ 3,985,000**	**△ 2,070,051**	**25,095,000**	**△ 2,377,551**	**7,897,527**		**5,519,976**
2. 経常外増減の部									
(1)経常外収益									
中科目別記載									
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0		0
(2)経常外費用									
中科目別記載									
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0		0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0		0
他会計振替額									0
当期一般正味財産増減額	△ 14,247,500	△ 7,170,000	△ 3,985,000	△ 2,070,051	25,095,000	△ 2,377,551	7,897,527		5,519,976
一般正味財産期首残高					114,097,173	114,097,173	39,221,202		153,318,375
一般正味財産期末残高	△ 14,247,500	△ 7,170,000	△ 3,985,000	△ 2,070,051	139,192,173	111,719,622	47,118,729		158,838,351
Ⅱ 指定正味財産増減の部									
受取補助金	1,200,000	8,100,000				9,300,000	0		9,300,000
一般正味財産への振替額	△ 1,100,000	△ 8,584,405				△ 9,684,405	0		△ 9,684,405
当期指定正味財産増減額	100,000	△ 484,405				△ 384,405	0		△ 384,405
指定正味財産期首残高	1,200,000	2,500,000				3,700,000	0		3,700,000
指定正味財産期末残高	1,300,000	2,015,595				3,315,595	0		3,315,595
Ⅲ 正味財産期末残高	**△ 12,947,500**	**△ 5,154,405**	**△ 3,985,000**	**△ 2,070,051**	**139,192,173**	**115,035,217**	**47,118,729**		**162,153,946**

VI. 部会選出新常置委員会委員一覧

平成 28，29 年度
部会選出新常置委員一覧

（委員は五十音順，次点者は得票順）

北部会	関東部会	近畿部会	西南部会
石井　邦明	赤羽　悟美	赤池　昭紀	岩崎　克典
服部　裕一	池谷　裕二	石澤　啓介	笹栗　俊之
福永　浩司	石川　智久	今泉　祐治	島添　隆雄
松本　欣三	石毛久美子	大野　行弘	中西　　博
谷内　一彦	伊藤　芳久	金子　周司	宮田　篤郎
吉岡　充弘	岡　淳一郎	高井　真司	柳田　俊彦
	尾崎　　博	土屋浩一郎	
	亀井　淳三	西堀　正洋	
	杉山　　篤	西山　　成	
	武田　弘志	橋本　　均	
	田中　　光	山田　清文	
	松木　則夫	吉栖　正典	
次点者	次点者	次点者	次点者
平藤　雅彦	成田　　年	荻田喜代一	荒木　博陽
木村　純子	木内　祐二	原　　英彰	津田　　誠
平　　英一	黒川　洵子	稲垣　直樹	武田　泰生
丹野　孝一	安西　尚彦	古屋敷智之	岩本　隆宏
	小泉　修一	前田　定秋	
	安東賢太郎	上原　　孝	
	熊井　俊夫	田熊　一敞	
	廣瀬　謙造		

Ⅶ. 規則の制定・変更

【制定】

Journal of Pharmacological Sciences 優秀査読者賞規定

平成 27 年 5 月 30 日制定

(趣　旨)

第1条　Journal of Pharmacological Sciences 優秀査読者賞（The JPS Excellent Reviewer Award；以下「本賞」という）は，Journal of Pharmacological Sciences(以下「JPS」という)の査読者の質を向上させ，掲載論文の国際的価値を高めることに資するために授与するものである．

(対　象)

第2条　本賞は，JPSの査読者の中から特に査読者として優れた者を選出し，授与する．

(授　与)

第3条　本賞授賞は，毎年 5 名以内とし，各々賞状を贈る．

(選考対象)

第4条　本賞は，JPS の査読者の中から選考する．

(発　表)

第5条　本賞の受賞者は，JPS及び日本薬理学会ホームページに発表する．

(選　考)

第6条　本賞の選考は，別に定める「Journal of Pharmacological Sciences 優秀査読者賞選考規定」による．

附　則　本規定は平成 27 年 5 月 30 日より施行する．ただし，JPS 優秀査読者賞を受賞した者は少なくとも２年間は選考の対象者から除外する．

Journal of Pharmacological Sciences 優秀査読者賞選考規定

平成 27 年 5 月 30 日制定

（趣　旨）

第１条　本規定は，Journal of Pharmacological Sciences 優秀査読者賞（The JPS Excellent Reviewer Award；以下「本賞」という）の受賞者を選考するための手続きを定めるものである．

（選　考）

第２条　本賞受賞者は，編集委員会（以下「委員会」という）が選考を行う．

第３条　委員会は本賞の選考に際して，委員会が適当と認める学識者の意見を聞くことが出来る．

（受賞者の資格等）

第４条　受賞者については，会員資格の有無，国籍，所属等に制限を設けない．

（決　定）

第５条　委員長は選考の経過並びに結果について理事長に報告する．理事長はその答申結果を理事会に付議し本賞受賞者を決定する．

附　則　本規定は平成 27 年 5 月 30 日より施行する．

JPS 優秀査読者賞受賞者選考規定運用細則

平成 27 年 5 月 30 日制定

1. 本賞の第１回受賞者は，JPS 優秀査読者賞選考規定制定時から遡って 10 年前以降に査読を行った者の中から選考し，以後も同様とする．
2. 編集委員会は，最終決定を行うに当たって，受賞者から内諾を得なければならない．
3. 賞状は，受賞者に授与する．

附　則　本細則は平成 27 年 5 月 30 日より施行する．

【制定】

JPS 国際対応委員会規定

平成 27 年 12 月 12 日制定

（趣　旨）

第１条　公益社団法人日本薬理学会（以下「本会」という）は，定款第 41 条に基づき，特別委員会として国際対応委員会（以下「委員会」という）を設置する．

（活　動）

第２条　委員会は，薬理学に係わる国際活動について，中・長期かつ総合的な観点から本会の活動方針の策定やその活性化について検討することを職務とする．また，薬理学の進展及び発展に資するため，他の委員会と連携・協力し次の活動を行う．

(1) 本会の国際活動の活性化
(2) 国際的な情報発信
(3) 国際薬理学連合（IUPHAR）との協働
(4) 海外の学協会との協力
(5) その他

（構　成）

第３条　委員会の構成は，次のとおりとする．

(1) 委員長は，原則として IUPHAR の役職にあるもの，あるいはそれに関連した活動に関与するものの中から，理事長が委嘱する．
(2) 委員は，会員の中から委員長が原則 6 名以内を指名し，理事会の承認を得て理事長が委嘱する．
(3) 委員のうち１名を副委員長とする．

２　副委員長は，委員長に事故あるとき，または委員長が欠けたときは新委員長が就任するまでの間，委員長の職務を代行する．

（任　期）

第４条　委員の任期は，役員任期に合わせた 2 年を活動単位とし，再任を妨げない．

（委員会の運営）

第５条　委員長は，必要に応じて委員会を開催し，または委員長は文書をもって委員の意見を徴し，委員会の開催に代えることができる．

２　委員会の開催費用は，本会の運用財産をもって支弁する．

（存　廃）

第６条　委員会の存廃は理事会で決定する．

附　則　本規定は，平成 27 年 12 月 12 日より施行する．ただし，最初に選出された委員の任期は平成 30 年の総会の日までとする．

【変更】

名誉会員推薦規定運用基準【変更】

現行規定	変更箇所
2.名誉会員推薦規定第2条第1号b)の「本会の発展に功績が顕著である者」は，以下の各号のいずれかの者とする． (1) 理事，監事を経験した者 (2) 常置委員会及び特別委員会の委員を通算 10 年以上経験した者 ただし，委員歴の算定に当たっては，部会長経験者及び 64 才で就任し任期1年で退任した選挙選出常置委員は，いずれも委員歴2年と数える．	(1) 理事，監事又は年会長を経験した者 附則　本基準は平成 27 年 12 月 12 日より施行する．

役員等選挙実施規定【変更】

現行規定	変更箇所
（役員選挙の手順，推薦制・二段階選挙） 第２条　役員選挙は，以下の手順により行う． 2　学術評議員は，細則第11条及び第12条に基づき，定められた数の役員候補者をあらかじめ推薦された者の中から部会ごとに選出する． 3　前項の役員候補者の選挙は，郵送により行うものとする． 4　学術評議員は，細則第14条により学術評議員会において役員を役員候補者のうちから選出する． 5　前項の役員選挙は，学術評議員会出席学術評議員の投票により行うものとする．	3　前項の役員候補者の選挙は，電子投票により行うものとする．
（常置委員会委員選挙の手順，一段階選挙） 第３条　常置委員会委員は，細則第 39 条に基づき，部会ごとに定められた数をその部会所属の学術評議員の互選によって選出する． 2　前項の常置委員会委員の選挙は，前条第3項の役員候補者の選挙と同時に郵送により行うものとする．	第３条　常置委員会委員は，細則第 40 条に基づき，部会ごとに定められた数をその部会所属の学術評議員の互選によって選出する． 2　前項の常置委員会委員の選挙は，前条第3項の役員候補者の選挙と同時に電子投票により行うものとする．
（選挙開票の管理） 第４条　役員選挙の開票は年会長が，役員候補者及び常置委員会委員選挙の開票は部会長が，それぞれ管理する． 2　開票は複数の立会人のもとに行う．役員選挙の開票立会人は学術評議員会において選任する．役員候補者及び常置委員会委員選挙の開票立会人は，部会長及び当該部会の総務委員会委員又はその代理者とする．	2　開票は複数の立会人のもとに行う．役員選挙の開票立会人は学術評議員会において選任する．役員候補者及び常置委員会委員選挙の開票立会人は，原則として総務委員長に加え部会長又は当該部会の総務委員会委員の計２名とする．
（推薦の手続き） 第８条　理事長は，選挙の年の 10 月に部会ごとの被推薦権有資格者の名簿を公示する．ただし，第 6 条に基づき，公示以後同年 10 月 31 日までに部会を移った者は，公示された名簿にかかわらず，転入後の部会の所属とする． 2　推薦は，前項の公示以後同年 10 月 31 日までに，所定の書式により書面をもって本会事務局に届けるものとする． 3　自薦は差し支えないものとする． 4　学術評議員は，役員候補者の被選挙権者を推薦するに当たって，当該部会の理事定数と監事候補者定数の和（北部会 3，関東部会 7，近畿部会 7，西南部	2　推薦は，前項の公示以後同年 10 月 31 日までに，所定の書式により本会事務局に届けるものとする． 4　学術評議員は，役員候補者の被選挙権者を推薦するに当たって，当該部会の理事定数と監事候補者定数の和（北部会 3，関東部会 7，近畿部会 7，西南部

会 3）を超えて推薦することはできない． 5　前項の定数を超えて推薦した場合は，その学術評議員による推薦のすべてを無効とする．	会 3）とする． （5 項削除）
（被選挙権者の確定及び投票） 第10条 役員候補者被選挙権者の確定は，理事長の責任において行う． 2　理事長は，部会ごとに役員候補者被選挙権者名簿を作成し，選挙の年の 11月15日（当日が休日のときは翌業務日）に投票用紙と共に当該部会の投票有権者に送付する． 3　有効に推薦された者であっても，同年 11月15日までに部会から転出した者は，被選挙権者名簿に含めない．	2　理事長は，部会ごとに役員候補者被選挙権者名簿を作成し，選挙の年の 11月15日（当日が休日のときは翌業務日）に投票フォームと共に当該部会の投票有権者に公示（公開）する．
（被選挙権者の確定及び投票） 第 13 条　常置委員会委員被選挙権者の確定は，理事長の責任において行う． 2　理事長は，各部会ごとに常置委員会委員被選挙権者名簿を作成し，選挙の年の 11月15日（当日が休日のときは翌業務日）に投票用紙と共に当該部会の投票有権者に郵送する．	2　理事長は，部会ごとに常置委員会委員被選挙権者名簿を作成し，選挙の年の 11月15日（当日が休日のときは翌業務日）に投票フォームと共に当該部会の投票有権者に公示（公開）する．
（投票の締切） 第15条　郵便投票の締切は，選挙の年の 11月30日（当日消印有効）とする．	第15条　電子投票の締切は，選挙の年の 11月30日とする．
（連記数と投票の有効性） 第 16 条　規定数以内を単記又は連記した投票はすべて有効とする．規定数を超えて連記した場合は，その投票用紙全体を無効とする．	第 16 条　規定数以内を単記又は連記した投票はすべて有効とする．
（重複投票の有効性） 第17条 連記した番号のうち同一番号が重複している場合，重複した番号を記した票は 1 票だけを有効とし，他は無効とする．	（17 条削除）
（不適記載投票） 第 18 条　被選挙権者の番号以外の数字又は文字を記載した票は，その票を無効とする．	（18 条削除）
（開票時の問題処理） 第 19 条　数字を判読し難い場合，その他投票に関して不明な場合は，開票立会人の判断による．	第 17 条　投票に関して不明な場合は，開票立会人の判断による． 附　則　本規定は平成 27 年 12 月 12 日より施行し，平成 28 年度に行われる選挙から適用する．

代議員選挙実施規定【変更】

現行規定	変更箇所
（選挙の方法） 第 5 条　代議員選挙は，所定の投票方法をもって行う． 2　前項の投票は，部会ごとに定める次のとおりの定数の連記投票とする． 北部会 3 名，関東部会 6 名，近畿部会 6 名， 西南部会 3 名．	
3　前項の定数を超えて投票した場合は，その投票のすべてを無効とする．	（3 項削除）
4　投票の締切は，理事長が選挙を公示した月の末日とする．	3　投票の締切は，理事長が選挙を公示した月の末日とする． 附　則　本規定は平成 27 年 12 月 12 日より施行する．

役員選考委員会規定【変更】

現行規定	変更箇所
（委員会の構成・任期） 第 3 条　委員会は 8 名以内の委員をもって構成し，うち 1 名を委員長とする． 2　委員は，細則第 42 条第 1 項により，新理事会発足後の理事会において理事経験者，常置委員，常置委員経験者，部会長及び部会長経験者の中から候補者を選定する． 3　委員の任期は，役員候補者選挙（年会選挙）終了後最初に迎える年会学術評議員会の開催日から，当該役員候補者選挙（年会選挙）終了の日までとする． 4　委員会は必要に応じて開催し，あるいはメールによる持ち回り審議を行う． 5　委員は任期満了後も後任者が就任するまでは，その職務を行う．ただし，委員がその任期中あるいは任期満了後，後任者が就任するまでの間に理事に就任したときは，委員の職務を行うことはできない．	2　委員は，細則第 43 条第 1 項により，新理事会発足後の理事会において理事経験者，常置委員，常置委員経験者，部会長及び部会長経験者の中から候補者を選定する．委員は就任年の 4 月 1 日において年齢満 65 歳未満でなければならない． 3　委員の任期は，役員候補者選挙（年会選挙）終了後最初に迎える年会学術評議員会の開催日から，当該役員候補者選挙（年会選挙）終了の日までとし，再任を妨げない．ただし，連続 2 期を超えて就任することはできない． 附　則　本規定は平成 27 年 5 月 30 日より施行する．

新学術評議員選考規定【変更】

現行規定	変更箇所
（研究歴） 第 2 条　細則第 28 条にいう薬理学研究歴（以下「研究歴」という）は，研究施設の名称などにこだわることなく薬理学的研究及び関連領域研究に従事した期間をいうものとする． 2　関連領域研究の妥当性は，委員会の判断による． 3　学部学生及び研修医の期間は研究歴に含めない．ただしこの期間にあって研究又は学会活動をしたと認められる場合はこの限りではない． 4　研究歴の算定は，学術評議員就任時現在で行う．なお，1ヵ月未満の端数は，1ヵ月に数える．	第 2 条　細則第 29 条にいう薬理学研究歴（以下「研究歴」という）は，研究施設の名称などにこだわることなく薬理学的研究及び関連領域研究に従事した期間をいうものとする． 3　学部学生及び研修医の期間は原則研究歴に含めない．ただし日本薬理学会に入会し，在籍した期間及び新学術評議員選考規定運用基準第 1 項各号は研究歴に含めることができる． 附　則　本規定は平成 27 年 5 月 30 日より施行する．

新学術評議員選考規定運用基準【変更】

現行規定	変更箇所
1. 新学術評議員選考規定第 2 条第 3 項については，次の各号の場合はいずれも研究歴に含めることができる． (1)　学会活動として薬理学会で本人が発表したと委員会が認めた場合． (2)　研究活動として原著論文を第 1 著者として発表したと委員会が認めた場合．	1. 新学術評議員選考規定第 2 条第 3 項により，次の各号はいずれも研究歴に含めることができる． 附　則　本基準は平成 27 年 5 月 30 日より施行する．

日本薬理学会利益相反マネージメント施行細則及び申告書様式【変更】

http://pharmacol.or.jp/download/index.html

※副理事長制導入により，定款施行細則第 18 条以下に条の繰り下げがあるが，各規定において，条の変更だけが生じている場合は改めて提示していない．

Ⅷ. 理事会等報告

理 事 長：飯野　正光　以上　1名

理　　事：赤池　昭紀，伊藤　芳久，今井由美子，今泉　祐治，大熊誠太郎，岡　淳一郎，岡村　富夫，金子　周司，川西　　徹，高橋　健三，武田　弘志，中谷　晴昭，福永　浩司，宮田　篤郎，谷内　一彦，柳原　延章，米田　幸雄　以上17名

監　　事：木村　純子，玉置　俊晃　以上　2名

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ：石井　邦雄，岩尾　　洋，植田　弘師　以上　3名

1.　理事会構成について

平成27年度は，飯野 正光理事長，赤池 昭紀副理事長・財務委員長，中谷 晴昭総務委員長，福永 浩司編集委員長の各常務理事，企業所属理事，公的研究機関所属理事，女性理事を含む18名の理事と2名の監事で理事会が運営された．理事1名，監事1名の交替があり，新たに高橋 健三理事，玉置 俊晃監事が就任した．植田 弘師氏は，第90回年会長就任により今期はオブザーバーとして参加した．

2. 学会の運営について

Journal of Pharmacological Sciences(JPS)と日本薬理学雑誌（日薬理誌）の二誌の委託先変更が完了し，財政状況の好転が期待される平成27年度は，本来の学会活動に注力し，薬理学会の国際化及び活性化を目指して事業を行った．年会では，女性研究者，若手研究者，企業研究者の積極的な参画を促すこと，年会長と年会学術企画委員会の連携をこれまで以上に強化し，中長期的な視点に立ったプログラム構成を企画できる体制の確立に努めた．第89回年会の企画は年会長と年会学術企画委員会の協働で企画の方針を決定し，具体的な企画は石井年会長が立案した．出版事業では，JPSを平成27年度より全面電子化して発行している.WCP2018を成功に導くために国内外の関連団体と新たな連携を構築して学会のグローバル化の推進に努めた．

3. 学会の在り方と薬理学の展開について

学会活動に女性研究者の参画を促すために,常置委員会委員に女性を最低1名追加する理事会の申し送り事項を受けて,女性委員を追加した．

日本医学会の「医学研究の利益相反（COI）マネージメントに関するガイドライン」の改定に合わせて，COIの申告書様式を改定し，それぞれの事業においてCOI開示の周知に努めた．

1）学術集会，講演会等の開催事業について

・第88回年会(今泉 祐治年会長)は「医薬科学立国への革新 For the Next Innovation in Medical Science and Technology」をテーマに平成27年3月18日から20日まで名古屋市の名古屋国際会議場で，日本薬理学会が取り組むべき重要なテーマ1）新たな薬物治療ターゲットと薬理学新領域の開拓，2）企業研究者の視点からの薬理学，3）若手研究者の育成，4）男女共同参画の推進，5）学会の国際化，等多彩な企画のもとに開催された．科学研究費補助事業公開講座は「時と睡眠と薬」をテーマに平成27年3月21日に名古屋市の中区役所ホールで開催された．

・地方部会は地域特性を生かした企画で6回開催され，新薬理学セミナーは第66回北部会，第68回西南部会とそれぞれ連携して2回，薬理学振興助成事業の公開講座は第66回北部会と連携して1回開催された．

2）学会誌等刊行物の刊行事業について

・日薬理誌は，平成27年度より中西印刷株式会社に委託先変更し発行されている．

・JPSは，平成27年度よりエルゼビアに委託先変更し発行されている．JPS査読者の質の向上と，掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的でJPS優秀査読者賞を創設し，平成27年度の受賞者5名を決定した．

3）研究の奨励及び研究業績の表彰事業について

・江橋節郎賞選考委員会の答申に基づき森 泰生教授（京都大学大学院地球環境学堂及び工学研究科）を第9回江橋節郎賞受賞者に決定した．

・第 31 回学術奨励賞受賞者 3 名及び JPS 優秀論文賞受賞論文 3 編を決定した．JPS 優秀論文賞は今回より，過去 3 年間に掲載された原著論文の中で引用回数の多い順に約 10 編を選び，その中から選考されている．
・平成 27 年度（第 88 回年会）の年会優秀発表賞は，20 名に贈呈された．

4）内外の関連学術団体との連携及び協力事業について
・ASCEPT と JPS の講師交換プログラムとして 2015 年 12 月のオーストラリア・タスマニア島での開催に金井 好克大阪大学教授を派遣した．
・ASPET と JPS の講師交換プログラムは 2016 年の第 89 回年会に JPS-ASPET Lecture として P. J. Conn 氏を招へいする．
その他，WCP2018 の成功に向けて，内外の学術団体と連携を進めた．

4. 役員候補者，常置委員会委員選挙の実施

平成 28 年に就任する役員の候補者及び常置委員会委員を選出した．ホームページの「会員向けお知らせ」に役員被選挙権有資格者名簿掲載，平成 27 年 10 月末日まで役員候補者推薦受付，同年 11 月末日まで郵便投票受付，12 月初旬に開票し，役員候補者，常置委員会委員を決定した．年会時の学術評議員会出席学術評議員により役員選挙が行われ，役員選考委員会選出理事とともに総会で選任の後，直ちに就任する．

5. 第 91 回（平成 30 年）年会長候補者の決定

第 91 回年会は平成 30 年 7 月に WCP2018 京都大会と同時に開催されるため,年会長には WCP2018 大会長の成宮　周京都大学教授に併任してもらう方向で検討してきた．しかし第 91 回年会は，本来の年会開催時期とは異なること，大会長は「就任年の 4 月 1 日に満 65 歳未満」の年会長の要件を充足しないため，第 91 回は「特別年会長」の呼称を使用することとし，第 91 回日本薬理学会特別年会長に成宮 周教授を決定した．

6. 名誉会員の推薦

平成 28 年度に就任する名誉会員候補者 12 名（会員 11 名，非会員 1 名）を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した．

石井　邦雄，井上　和秀，大熊誠太郎，岡村　富夫，小口　勝司，越川　憲明，田中　利男，仲田　義啓，
中谷　晴昭，柳澤　輝行，米田　幸雄（以上会員）
大村　　智（非会員）

7. 永年会員の推薦

平成 28 年度に就任する永年会員候補者の 丸山 悠司氏 を平成 28 年度の学術評議員会及び総会に推薦することを決定した．

8. 平成 28 年度薬理学振興助成事業決定について

1）新薬理学セミナー開催，2）市民公開講座開催，3）ダイバーシティ推進ランチョンセミナー開催，4）第 89 回年会外国人特別講演の日英同時通訳，5）第 89 回年会のキャリア形成セミナー開催，6）第 89 回年会講演の動画配信，の各助成事業及び助成額を決定した．

9. 平成 27 年度の事業報告及び決算を承認し，学術評議員会及び総会に付議する．平成 28 年度事業計画及び予算は，平成 27 年 12 月 12 日開催の理事会の承認，決定を経て内閣府に提出した．

10. 平成 26 年 12 月から平成 27 年 11 月までの新規入会者 473 名を承認した．
平成 28 年度からシニア割引適用を希望する 21 名を承認した．

Ⅸ. 委員会等報告

（各委員会委員名は五十音順，敬称略）

総務委員会報告

委員長：中谷 晴昭

委　員：伊藤 芳久，大熊誠太郎，片岡　泰文，西山　成，服部 裕一，松木 則夫

本年度は委員会を 1 回開催した．委員の一部に交替があり，西山　成委員，松木 則夫委員が新たに加わった．

1．規則の制定・変更について

WCP2018 開催後の国際的活動を戦略的かつ長期的展望のもとに展開するために委員会を組織して国際対応にあたるとする理事会決定を受けて，国際対応委員会の設置が決定し，その運営について定める国際対応委員会規定制定案，名誉会員推薦規定運用基準を補足する名誉会員推薦規定運用基準変更案，また本会選挙を全面電子化するために必要な役員等選挙実施規定及び代議員選挙実施規定の各変更案等について検討した．

・国際対応委員会は 1）特別委員会として常置する，2）委員長は，原則 IUPHAR の役職につく薬理学会会員とする，3）委員は，委員長が会員の中から指名する，4）委員の再任に制限を設けない，を骨子とする国際対応委員会規定案を理事会に提案した．国際対応委員会委員は名誉会員及び永年会員推薦時の委員歴に算入しないことを確認した．

・公益社団法人移行時の規則の見直しにより，年会長経験だけでは名誉会員推薦規定運用基準の 2.「本会の発展に功績が顕著である者」に該当せず推薦資格を満たさない場合が生じるため，同基準 2.の(1)を「理事，監事又は年会長を経験したもの」とする変更案を理事会に提案した．

・選挙を全面電子化するにあたり役員等選挙実施規定の「郵便投票」の文言を「電子投票」に変える，役員等選挙実施規定，代議員選挙実施規定両規定の中で連記数内の重複，規定数を超える投票への対応条項を削除する等の変更案を理事会に提案した．

・その他，役員選考委員会委員に，役員や常置委員同様「就任年の 4 月 1 日において年齢満 65 歳未満」，「連続 2 期を超えて就任することはできない」とする要件を追加した役員選考委員会規定変更案を理事会に提案した．

2．シニア会員申請書審査について

日薬理誌 9 月号及び 10 月号にシニア割引申請受付の案内と申請書様式を掲載し，会員への周知に努めた．平成 28 年度会費よりシニア割引適用を希望する者について審査を行い，申請者全員にシニア割引を適用できることを確認した．期限を過ぎた申請も 12 月の理事会承認に間に合う限り受け付け，シニア割引適用希望者 21 名を理事会に報告した．

3．電子投開票システム導入について

本会の役員候補者推薦及び代議員選挙には Web 投票が採用されているが，役員候補者・常置委員選挙は郵便投票による等，全面電子化には至っていないため，選挙投開票及び集計を全面電子化するための検討を行った．選挙の投票から開票及び集計までの全面電子化システムの開発費には約 50 万円を要するが，全面電子化により選挙費用はほぼ開票立会人の旅費負担のみとなる．電子投開票では，インターネットを使用しない会員が投票できなくなる等の問題があるが，開票作業の効率化により，開票に立ち会う役員，委員の負担が大幅に軽減されることを有権者に説明して，理解を求める．理事会に電子投開票システムの導入案を規則の変更案とともに提案した．

財務委員会報告

委員長：赤池 昭紀

委　員：石井 邦雄，　井上 和秀，　今泉 祐治，　岡 淳一郎，　小口 勝司，　新田 淳美，　藤尾　慈，柳原 延章，
吉岡 充弘

委員の交替があり，新田委員が新たに委員会に加わった．

委員会は平成 27 年度の決算処理を行い，平成 28 年度の予算案を編成した．

1．平成 27 年度決算について

平成 27 年度は一般正味財産が約 1,093 万円の黒字，指定正味財産が約 25 万円のマイナスとなり，正味財産全体では，前年度より約 1,028 万円増加の 1 億 7,858 万 7,636 円で決算した．経常収益は前年度より約 48 万円増加の 1 億 7,597 万 8,176 円，経常費用は前年度より約 1,231 万円減少の 1 億 6,504 万 934 円である．収益は前年度とほとんど変わらないものの，前期理事会が取り組んだ外部委託費の見直しにより費用の圧縮効果が顕著に表れた形となり，約 1,028 万円の正味財産の増加となった．

2．平成 28 年度予算について

平成 28 年度予算は，個人会費及び賛助会費の減少と事業収入の増加も見込めない状況であるが，収支の状況は，平成 27 年度とほぼ同じで推移するとの見込みのもとに予算を編成した．平成 28 年度の収益は平成 27 年度予算額より約 678 万円増加の約 1 億 7,450 万円，費用は平成 27 年度予算額より約 193 万円増加の約 1 億 6,890 万円となり，収支差額約 551 万円の黒字予算編成となった．国際情報発信強化のための科研費補助金の採択が平成 27 年度より 5 年間内定しているため，編集出版事業の将来計画を立てやすい状況が暫く続くものと思われる．

公益事業は収支相償が原則であり，平成 27 年度の公益事業が黒字決算となったことを受けて，平成 28 年度に公益事業の黒字額を解消する運営が求められている．

3　管理費の比較について

会員業務委託先が変更となり，新規委託先の委託料が従前よりも年額で約 110 万円の増加となったこと，また本部事務局と会員管理業務委託先の 2 ヵ所で会員管理システムを利用することによるシステム利用料の増加により，会員管理業務費は約 450 万円となっている．学会事務局内で会員管理業務を行う場合の非常勤職員 1 名の人件費と比較・検討したところでは，2019 年（平成 30 年）に事務局存廃を決定するまでの 4 年間だけでも会員管理業務を学会事務局内で行うことで，平成 27 年度決算よりさらに費用の削減が見込まれる．会員管理業務を行う非常勤職員あるいはアルバイト職員の雇用を検討することを決定した．

4　その他検討事項

・選挙投開票全面電子化に向けた選挙費用の比較について

総務委員会の選挙投開票全面電子化の提案を受けて，選挙費用の試算を行った．全面電子化システム導入時に 54 万円のソフトウェア取得費用が発生するが，5 年で均等償却するため単年度の負担は 10 万 8 千円であり，その他の選挙費用と合わせても役員選挙年ではほぼ半額の 50 万円程度となるため，財務の観点からも導入に問題がないことを確認した．

・平成 28 年秋の開催部会より，部会参加登録費を電子決済することを決定した．部会参加登録システムの機能アップには会員管理システム利用料が毎月 2 万円の負担増となり，決済代行手数料も増加するが，部会事務局の入金処理の負担軽減，情報発信手段の強化のほかに参加者の利便性も考慮し，部会参加登録システムの機能アップを決定した．

・年会抄録集の全面電子化に続き，部会の抄録集を Web 公開して部会要旨集も電子化し，印刷費用の削減と抄録集発送費の削減を図ることを検討した．部会抄録の Web 公開については平成 28 年度の開催部会で試行してみることを決定した．

・学術集会の運営は，個人の参加会費の他に寄付金や広告料収入に頼っているが，近年は予算額の収入確保が難しい状況にある．部会運営は予算に基づいて執行すること，予測しがたい事由により赤字決算となった場合の対応方法についても盛り込んだ財務委員長と部会長の申し合わせについてメール審議により検討を行い，平成 28 年度の部会運営の指針とすることを決定した．

編集委員会報告

委員長（JPS Editor-in-Chief）：福永　浩司

委員（JPS Associate Editors）：安西　尚彦，稲垣　直樹，上園　保仁，岡村　富夫，荻田 喜代一，

甲斐　広文（Press Editor），亀井　淳三，笹栗　俊之，筒井　正人，松本　欣三，若森　　実，渡邉　裕司

（下線は協力委員）

委員の一部に交替があり，荻田 喜代一委員，亀井　淳三委員が新たに加わった．

Ⅰ． JPS 投稿・審査状況（投稿数，採択率，Impact Factor）

1. 受付論文数（2015 年 1 月 1 日～12 月 31 日受付．Review を含む.）

1）分野別：（ ）内は海外からの内数

1 生理活性物質	12 (10)
2 受容体・チャネル・輸送系	30 (11)
3 細胞内情報伝達	22 (18)
4 生化学薬理	38 (35)
5 末梢神経薬理	6 (2)
6 心血管薬理・血液	43 (29)
7 中枢神経薬理	34 (20)
8 呼吸器薬理	7 (6)
9 腎薬理	14 (12)
10 消化器薬理	20 (13)
11 平滑筋薬理	4 (4)

12 骨・歯科薬理	15 (12)
13 内分泌薬理	8 (4)
14 臨床薬理	18 (14)
15 免疫薬理・炎症	20 (13)
16 化学療法	6 (5)
17 毒科学	10 (6)
18 Natural medicine materials	27 (22)
19 幹細胞薬理	3 (1)
20 疼痛薬理	9 (2)
21 生物製剤薬理	8 (7)
合計	354(246)

2） 国別

China 164, Japan 108, Korea 17, Egypt 8, USA 7, India 6, Thailand 5, Brazil 4, Iran 4, Italy 4, Indonesia 3, Taiwan 3, Hong Kong 2, Macau 2, Russia 2, Tunisia 2, Turkey 2, UK 2, Chile 1, Czech 1, Pakistan 1, Poland 1, Portugal 1, Saudi Arabia 1, Singapore 1, Spain 1, Togo 1

2. 採択率（投稿年別）

2009 年 47%, 2010 年 49%, 2011 年 50%, 2012 年 50%, 2013 年 48%, 2014 年 42%,
2015 年 27%（国内論文 63%, 海外論文 13%）
*注：2016 年 1 月 28 日現在，審査中 32 件.

3. Impact Factor （Journal Citation Report JCR® 発表）

2008 年：2.599, 2009 年：2.176, 2010 年：2.260, 2011 年：2.082, 2012 年：2.150, 2013 年：2.114,
2014 年：2.360（国内発行の自然科学系 235 誌中 28 位）

Ⅱ． JPS 刊行状況：本資料の「事業報告」の項に記載

Ⅲ． JPS 審議・決定，報告事項

1. 編集体制について
現行は国内 13 名，海外 7 名の編集体制であるが Dr. Feng Han（Zhejiang University）と Dr. Md Bhuiyan Shenuarin（Louisiana State University）が Associate Editor として 2016 年 1 月より加わる．学会理事，常置委員から編集委員が選任されているが，現在 Editorial Board 制を検討中である．2015 年 5 月に 5 名の海外 Editor が 4 年の任期を迎えた．5 名とも JPS 編集への貢献度が高いことから 2 年間任期を更新することを決定し，海外 Editor からも了承を得た.

2. JPS 優秀査読者賞の新設について
JPS 査読者の質の向上と，掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で創設する JPS 優秀査読者賞の運営について定める「JPS 優秀査読者賞規定」，JPS 優秀査読者の選考手順について決定した.

3. COI の規定について
JPS が採用している COI の運用方針を確認し,各 Editor においては審査時に COI の項目が論文に記載されているかのチェックを徹底する.

4. IF の向上について
2013年7月の編集委員会にて新設したEditorial 欄にできるだけ執筆する.「特集」などで海外からの原稿の掲載を増やすこと，また年会で招待講演を行った研究者にできるだけ総説を執筆してもらうよう努力する.

5. 査読期間短縮への取組みについて
受理論文は2週間程度で出版前論文として公開できるようにする.

6. 国際情報発信強化の取組みについて
国際発信に向けた取組みに関して，国際情報発信強化の科研費補助金が平成27年度より5年間採択された．さらに第89回薬理学会年会（横浜）において，JPS 後援の JPS サテライトシンポジウムを企画することにした.

2015-2016 年度 Editor およびAdvisor の担当分野

分野		Editor	Advisor
01	生理活性物質	安西, 稲垣, 上園, 岡村, 荻田, 亀井, 笹栗, 福永, 松本, Govitrapong, Lawrence, Wong	石橋　仁, 上野　晋, 香月博志, 葛巻直子, 小山　豊, 近藤一直, 田中宏幸, 田中芳夫, 西堀正洋, 西山　成, 柳田俊彦, Kim
02	受容体・チャネル・輸送系	安西, 稲垣, 上園, 荻田, 亀井, 松本, 若森, Bhuiyan , Govitrapong, Lawrence, Okamoto, Wong, Popoli	礒濱洋一郎, 石橋　仁, 上野　晋, 内田信也, 香月博志,　葛巻直子, 小山 豊, 酒井規雄, 田熊一敞, 武田泰生, 田中芳夫, 西堀正洋, 西山　成, 平野勝也, 柳田俊彦, Bathgate, Mallei, Musazzi, Razzaque, Satayavivad, Uddin
03	細胞内情報伝達	上園, 荻田, 亀井, 笹栗, 福永, Govitrapong, Han, Okamoto, Popoli	石橋　仁, 香月博志, 木澤靖夫, 小山　豊, 酒井規雄, 武田泰生, 西堀正洋, 平野勝也, 柳田俊彦, Bathgate, Bian, Chong, Kim, Lu, Mallei, Musazzi, Shen, Vincent, Zhou
04	生化学薬理	稲垣, 甲斐, 笹栗, Bhuiyan, Govitrapong, Okamoto, Popoli, Wong	内田信也, 小山　豊, 西堀正洋, Bathgate, Chong, Kim, Mallei, Musazzi, Razzaque, Sun, Uddin
05	末梢神経薬理 （自律神経・運動神経・局所麻酔を含む）	稲垣, 上園, 岡村, 亀井, 若森, Govitrapong	石橋　仁, 礒濱洋一郎, 竹内正吉, 田中芳夫, 松本直樹, 柳田俊彦
06	心血管薬理・血液	安西, 岡村, 笹栗, 筒井, 福永, 渡邊, Bhuiyan	梅村和夫, 近藤一直, 田中芳夫, 西山　成, 平野勝也, 松本直樹, Bian, Razzaque, Satayavivad, Uddin
07	中枢神経薬理	上園, 荻田, 亀井, 福永, 松本, 若森, Govitrapong, Han, Lawrence, Suh, Wong, Popoli	荒木博陽, 石橋　仁, 岩崎克典, 上野　晋, 香月博志, 葛巻直子, 小手川勤, 小山　豊, 酒井規雄, 千堂年昭, 田熊一敞, 武田泰生, 徳山尚吾, 西堀正洋, 柳田俊彦, Chong, Kim, Lu, Mallei, Musazzi, Satayavivad, Shen, Parish, Vincent, Zhou
08	呼吸器薬理	稲垣, 甲斐, 亀井	礒濱洋一郎, 木澤靖夫, 田中宏幸, 西堀正洋, 松本直樹, Satayavivad
09	腎薬理	安西, 岡村, 甲斐, 笹栗, 筒井, Bhuiyan	荒木博陽, 千堂年昭, 西山　成, 松本直樹, 藤田朋恵, Razzaque, Uddin
10	消化器薬理	上園, 笹栗, Okamoto	Satayavivad, 竹内正吉
11	平滑筋薬理	岡村, 笹栗, 筒井	木澤靖夫, 竹内正吉, 田中芳夫, 平野勝也
12	骨・歯科薬理	笹栗, 松本, 若森	大谷啓一, 田熊一敞, 戸苅彰史
13	内分泌薬理	甲斐, 笹栗, 筒井, 福永, Govitrapong	戸苅彰史, 徳山尚吾, 西山 成, 柳田俊彦, Bathgate
14	臨床薬理	安西, 笹栗, 渡邊	荒木博陽, 内田信也, 梅村和夫, 小手川勤, 近藤一直, 千堂年昭, 武田泰生, 徳山尚吾, 坪井正博, 藤田朋恵, 松本直樹
15	免疫薬理・炎症	稲垣, 甲斐, 笹栗, Xu	田中宏幸, 西堀正洋, Chong, Shen, Sun
16	化学療法	上園, 笹栗	武田泰生, 坪井正博, Sun
17	毒科学	荻田, Govitrapong, Han	上野　晋, Lu, Satayavivad, Zhou
18	Natural Medicine Materials	稲垣, 上園, 荻田, 笹栗, 松本, Govitrapong, Han	礒濱洋一郎, 岩崎克典, 坪井正博, 西堀正洋, Lu, Satayavivad, Zhou
19	幹細胞薬理	荻田, 筒井, Bhuiyan, Suh	Razzaque, Uddin
20	疼痛薬理	上園, 亀井, Han	Lu, Zhou
21	生物製剤薬理	Han, Bhuiyan	Lu, Razzaque, Uddin, Zhou
	統計処理		浜田知久馬

研究推進委員会報告

委員長：武田　弘志

委　員：赤羽　悟美，岩崎　克典，金井　好克，越川　憲明，南　　雅文，米田　幸雄

1.　薬理学振興助成事業である平成 28 年度新薬理学セミナーを下記の内容で開催することを決定し，理事会に報告した．

(1) 関東部会との連携

世話人：武田　弘志（国際医療福祉大学薬学部･教授）

日　時：平成 28 年 7 月 9 日(土)（第 134 回関東部会と同日同会場の 14:20～16:20 に開催の予定）

場　所：国際医療福祉大学（栃木県大田原市）

テーマ：「プロバイオティクスが拓く新たな創薬研究」

講　師：佐藤　　直（ヤクルト本社基盤研究所 フローラ機能研究室・指導研究員）

西田 憲生（徳島大学大学院医歯薬学研究部 病態生理学分野・准教授）

(2) 近畿部会との連携

世話人：金子　周司（京都大学大学院薬学研究科･教授）

開催日：平成 28 年 11 月 19 日(土)（第 130 回近畿部会と同日同会場で開催の予定）

場　所：京都大学百周年時計台記念館（京都市左京区）

テーマ：「iPS 細胞と創薬」

講　師：江藤 浩之，井上 治久，長船 健二（いずれも京都大学 iPS 細胞研究所・教授）

2.　薬理学パンフレットに新しい知見を追加することについては，次期委員会に検討を申し送ることを決定した．

広報委員会報告

委員長（会誌編集長）：谷内　一彦

委員：　荒木　博陽，　尾崎　　博，　香月　博志，　川西　　徹，○斉藤亜紀良，　田中　　光，　東城　庸介，

○橋本　　均，　原　　英彰，　三輪　聡一，○山田　清文，　山田　久陽

（○は会誌副編集長，下線は協力委員）

平成 27 年度第 1 回広報委員会を 2015 年 3 月 19 日（木）に開催，その後はメールで審議を行った．

1. 日薬理誌「Letter to the Editor」欄の新設

日薬理誌に掲載された総説に対して意見を異にする論文が投稿された．掲載記事へのコメントという形で取り扱うこととし，掲載する欄として「Letter to the Editor」欄を新設した．今後，日薬理誌に掲載された内容に対する反論や意見などの投稿は，基本的にこの欄にて受け付ける．

2. 社内資料からの転載図の扱い

「新薬紹介総説」欄では製薬会社の社内資料を原典として掲載される図表がある．これを販促資料に使用するにあたって日薬理誌を出典としたいという申し出があり，この転載表記を許諾した．また，社内資料を引用文献として挙げることに関し議論し，今期委員会においては当面は認めていくこととした．出版倫理との兼ね合いからさらに考察する必要もあり，今後の対応は次期広報委員会でも引き続き検討する方針とする．

4. 日薬理誌著者からの最終 PDF のリクエスト

「アゴラ」や「リレーエッセイ」など，J-Stage に掲載していない記事の PDF は，著者から希望があれば有料で提供しているが，今後すべての記事で希望があれば有料で提供することにした．なお，著者より掲載号発行前に最終版 PDF を希望される場合があるが，これも同様に有料にて提供することとした．

5. 日本薬理学会英語ホームページ（HP）　http://www.pharmacol.or.jp/en/

リニューアル版英語 HP が完成し，2015 年 3 月 16 日に公開された．7 月には内容をより詳細に書き加えている．また，WCP2018 のバナーを掲載し，WCP2018 ウェブサイトへのリンクを貼った．今後，英語 HP 担当委員を中心に更なる内容の充実を目指す．

6. 日薬理誌の現在の編集状況と今後の原稿予定

2016 年 12 月号までの掲載予定状況を確認した．新たな企画「創薬研究の新潮流」について創薬シリーズ担当委員より説明があった．編集委員から「総説」,「実験技術」,「キーワード解説」,「最近の話題」などの執筆者の提案を受け付けている．第 89 回年会シンポジウム・オーガナイザーから日薬理誌への寄稿を募集した．

7. 平成 28 年度日本薬理学会市民公開講座の募集

平成 28 年度の部会時に市民公開講座を開催する場合に，薬理学振興助成事業から部会に支援できるよう財務委員会に予算申請（1 部会に 40 万円の支援が可能）を行った．複数の希望があった場合には広報委員会で助成先を決定する予定．毎年 3 月の年会時に開催される財務委員長主催の部会長懇談会で広報している．

8. 日薬理誌のメテオ社オンラインサービスの契約，著作権権利許諾.

日薬理誌の利便性の向上を目的に，メディカルオンライン会誌閲覧サービスへの登録を行った．これにより薬理学会専用の ID とパスワードで日薬理誌と JPS の閲覧がメディカルオンラインを介して可能となった．日薬理誌は，J-Stage での閲覧に 6 ヶ月の制限期間が設けられているが，それを待たずに閲覧できる点が特長で，JPS はさらに検索が多くなると見込まれる．7 月 27 日に学術評議員に学会専用 ID，パスワード，URL をメール配信した．

企画教育委員会報告

委員長：金子　周司

委　員：池谷　裕二，石井　邦明，石毛久美子，今井由美子，田中　利男，前田　定秋，宮田　篤郎

委員会を 1 回開催し，以下について審議した．

1. 新学術評議員候補者選考の件

新学術評議員選考規定に基づき，平成 28 年度新学術評議員候補者 27 名について慎重かつ厳正に審査を行った．うち 1 名については特例措置を適用した．委員会は 27 名の申請者全員を学術評議員候補者として選定し，理事会および学術評議員会に諮ることとした．なお，学術評議員候補者数が年々漸減しており，本年度は過去 10 年で最も少ない数であった．これは若手の薬理学研究活動や学会活動への貢献度の低下を表しているものと捉え，本委員会では学会の将来像を懸念して現状で可能な活性化策について議論した．

2. 次世代の会の活動に関する件

次世代の会（代表：山口　拓・長崎国際大助教）より規約策定およびホームページの立ち上げについて提案がなされ，本委員会としては，具体的な規約案およびホームページ運営方法の提案を受ければ内容を検討し，理事会に諮ることとした．

3. ダイバーシティ推進事業

年会におけるダイバーシティ推進ランチョンセミナーについて，第 89 回年会では東邦大・医・赤羽悟美先生にお世話いただくことになった．

賞等選考委員会報告

委員長：今井由美子

委　員：赤羽　悟美，井上　敦子，岩本　隆宏，小泉　修一，斉藤亜紀良，橋本　　均，平藤　雅彦，藤尾　　慈

委員会を 1 回開催し，以下について審議した．

1. 第 31 回学術奨励賞候補者の選考について

第 31 回学術奨励賞には 7 名（全て男性）から申請があり，1）会員歴 5 年以上，2）受賞の暦年の 4 月 1 日において年齢 40 歳未満，の要件を充足していることを確認した．委員会は，7 名の候補者の推薦書及び提出論文による事前審査と，研究のオリジナリティ，完成度，実験の方法・技術の優秀性，科学的貢献，将来の発展性，薬理学会への貢献（JPS 掲載論文数，過去 3 年間の年会・部会での発表数）についての委員会審議により，採点評価の上位 3 名を候補者として

選出した．うち 2 名の書類に不備があり更正書類の提出を確認の後，委員会は，メール審議により青木 友浩氏，小坂田文隆氏，中野 大介氏（50 音順）の 3 名を第 31 回（平成 28 年）学術奨励賞受賞候補者として理事会に答申することを決定した．

2. 学術奨励賞応募規定・申請書式について

今回の選考においても，他学会との重複申請と判断されるものがあり，重複申請でも授賞の対象とするか，他学会への申請書を審査の際に提出してもらうことの是非が問題となった．また，学術奨励賞の申請内容が候補者間でばらばらにならないよう，申請書の書き方を明記すべきとのことが指摘された．

委員会は，重複申請の対応を含む授賞の在り方について検討の必要性を理事会に提案することを決定した．

3. 平成 28 年度薬理学振興助成事業の選考の報告

申請のあった下記 6 件の審査の結果，本委員会は全ての申請を採択する旨理事会に答申した．

1）新薬理学セミナー2016　50 万円（研究推進委員会申請）
2）市民公開講座　120 万円（広報委員会申請）
3）ダイバーシティ推進ランチョンセミナー2016　60 万円（企画教育委員会ダイバーシティ推進担当申請）
4）第 89 回年会　外国人特別講演の日英同時　148 万円（第 89 回石井年会長申請）
5）第 89 回年会　キャリア形成セミナー　62 万円（第 89 回石井年会長申請）
6）第 89 回年会　講演の動画配信　40 万円（第 89 回石井年会長申請）

4. 各種助成団体等への学会推薦について

1）第 6 回（平成 27 年度）日本学術振興会育志賞：1 名を学会推薦（採択）
2）第 47 回（2015 年度）内藤記念海外学者招聘助成：石井　邦雄 第 89 回年会長を推薦（採択）

年会学術企画委員会報告

委員長：宮田　篤郎
委　員：池谷　裕二，今井由美子，金子　周司，高橋　健三，武田　弘志，米田　幸雄
オブザーバー：石井　邦雄，植田　弘師

平成 27 年度は高橋 健三氏が新たに委員に加わり，石井 邦雄第 89 回年会長，植田 弘師第 90 回年会長がオブザーバーとして参加した．平成 27 年 5 月 2 日と平成 28 年 2 月 15 日に委員会を開催し，その他にメール会議で審議等を行った．

1. 第 89 回年会の企画シンポジウムについて

平成 27 年 5 月 2 日開催の委員会において年会企画の在り方について検討した．トピックとなる企画シンポジウムを予め提示して，公募シンポジウムとの重複を避けること，若手研究者，女性研究者，海外からの研究者がシンポジストとなるものを優先する方針とし，第 89 回年会は，1）iPS 細胞：創薬研究における現状と課題，2）レギュラトリーサイエンスの進歩と医薬品審査，3）パーソナルゲノムデータとビッグデータが描く未来の医療，4）生理機能発現における臓器間ネットワークの重要性，5）CRISPR/Cas 法によるゲノム編集技術，6）薬理学研究における計算科学：生体機能シミュレーションの応用，7）看護における薬理学教育を考える～薬物治療に強い看護師を育てるには～，の 7 つの企画シンポジウムを決定した．

2. 第 89 回年会における他学会との共催シンポジウムについて

・日本臨床薬理学会との共催教育セミナー：『科学研究における倫理の質を高める』
　オーガナイザー：福永　浩司（東北大学･院薬）
　　熊谷　雄治（北里大学治験管理センター）
・日本生理学会との共催シンポジウム：『光遺伝学や薬理遺伝学を用いた痛みの研究の最前線』
　オーガナイザー：山中　章弘（名古屋大学環境医学研究所）
　　成田　　年（星薬科大学･薬）
・日本毒性学会との共催シンポジウム：『ガス状分子と活性イオウによる病態制御機構の解明』
　オーガナイザー：松本　明郎（千葉大学･院医）
　　渡邊　泰男（昭和薬科大学）
　　熊谷　嘉人（筑波大学）

3. 第90回年会について

平成28年2月15日開催の委員会において，植田弘師第90回年会長より提案された第90回年会の企画案に基づき，第90回年会の在り方について検討した．『出島に学ぶ -Therapeutic Innovation from Dejima-』をテーマとして，「議論を中心とするシンポジウム」及び「World Pharma 2018への布石」を特色とした年会とすることが了承された．そして公募シンポジウムについては，活発な討論を促すため，内容の重複や演者のプロフィールなどの応募情報をもとに採択を一定数に絞り，十分な討論時間や指名討論者，その他規格化された発表形式やパネルディスカッションなどの工夫を行う．その他，テーマ（生活習慣病，疼痛，がん，免疫疾患，虚血・神経変性など）をある程度絞ってテーマ毎に一般演題から選考し，討論時間を長く設けるナノシンポジウムを企画する．また，World Pharma 2018への布石としてのJPSサテライトシンポジウム「最先端イメージング研究の創薬研究への応用（仮称）」の他，企画シンポジウムとして，「NEXT創薬」，「創薬ベンチャー」，「眼疾患薬理」，「糖尿病合併症治療」，「DAMPs創薬」，「口腔ブレインサイエンス」，「チーム医療と薬理」，「薬理学教育」などが提案され，了承された．

江橋賞選考委員会報告

委員長：岩尾　洋

委　員：審良 静男，　清野　進，　樋口 輝彦，　藤田 敏郎，　柳田 敏雄（以上学会外委員）

井上 和秀，　鈴木　勉，　元村　成，　矢部 千尋

第9回江橋賞候補者選定のための委員会を平成27年10月23日に開催した．

平成27年度の選考委員は，外部委員及び学会内委員各2名の交替があった．

第9回江橋節郎賞候補者として，3名が推薦された．

1. 規則の確認と議決方法について

各候補は「会員歴10年以上」の要件を充足していること，選考にあたり各候補者の主要論文リストに，選考委員が共著となっているものがないことを確認した．

議決方法は，各委員による事前審査と委員会当日の意見交換を十分考量し，委員の無記名投票により決定することとした．

2. 受賞候補者選考の経緯と選考結果について

委員長が指名した委員により，各候補者の研究内容の経過とその成果の概要が紹介され，各候補者について1）研究業績の学問的レベル，2）独自性及び影響力の大きさ，について意見交換の後，議長を含む出席委員全員の無記名投票で採決を行った．委員会は出席委員の3分の2以上となる7票を獲得した森 泰生氏を第9回江橋賞受賞候補者として理事会に推薦することを決定した．

3. 受賞候補者の研究について

森候補は一貫してカルシウム透過性チャネルの分子実体と機能解明に取り組み，電位依存性カルシウムチャネルで多くの業績を挙げてきた．また，新規TRP（transient receptor potential）チャネルにより細胞内酸化還元状態や環境中の分子状酸素レベルなど環境変化のセンシングや炎症応答制御を明らかにし，新たな創薬標的となりうるチャネルを発見するなど先駆的な研究を展開している．これらの研究成果は薬理学の発展に寄与するだけでなく，薬理学と関係が深い新規学術分野も積極的に先導するものと評価される．

4. 今後の授賞の在り方等について

本会には，独創的，飛躍的な業績をあげ，薬理学の進歩にきわめて大きく貢献した研究者に授与される江橋賞と，薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し，将来発展の期待される若手研究者に授与される奨励賞の中間に位置する賞がない．会員の研究を一層奨励するために，江橋賞授賞者の対象を拡大し，中堅を含めた広い範囲から候補者を募るか，あるいは，中堅を対象とする新たな賞を創設してその業績を顕彰し更なる発展を期待する賞を創設するか，授賞の在り方について検討の必要性を理事会に提案することを決定した．

利益相反（COI）委員会報告

委員長：中谷 晴昭

委　員：伊藤 芳久，大熊誠太郎，片岡　泰文，西山　　成，服部 裕一，松木 則夫

本年度は委員会を1回開催した．委員の一部に交替があり，西山　成委員，松木 則夫委員が新たに加わった．
日本医学会のCOIマネジメントガイドライン改定に伴い，本会のCOI申告書で申告すべき金額の基準等の変更を行った．変更後の申請書により，理事会構成員，部会長，日薬理誌の筆頭著者より提出された利益相反（COI）申告書について審査を行った結果，理事会構成員5名と部会長1名が製薬会社より共同研究ないしは受託研究の研究費補助を受けていること，部会長1名が奨学寄附金を受けていることが申告されたがいずれも問題が無いことを確認した．

【ダイバーシティの取組み報告】

ダイバーシティ推進担当理事・企画教育委員会委員：今井由美子

第88回薬理学会年会のダイバーシティ企画シンポジウムについて
2015年3月19日，講師に米国メイヨークリニック医学部分子医療部門の池田 靖弘博士を招へいして，薬理学振興助成事業としてダイバーシティ推進ランチョンセミナーを開催した.テーマは「日本人が海外でラボを運営するにあって；ダイバーシティとサイエンス」である．129名（満席）の参加があり，日本人研究者が海外に留学する場合，外国人研究者を日本で受け入れる場合など，様々な視点から活発な討論がなされた．

【国際対応報告】

国際対応担当・日本学術会議IUPHAR分科会委員長：飯野　正光

以下の2委員会の合同会議を平成27年9月6日に開催するとともに，メール会議と小委員会を適宜開催し，日本薬理学会理事会とともに国際対応にあたった．

日本学術会議IUPHAR分科会：飯野 正光(委員長)，赤池 昭紀(委員長)，今井由美子，萩原 正敏，三品 昌美，
（上田 泰己）

WCP2018組織委員会：成宮　周(会長)，川合 眞一(副会長)，松木 則夫，橋本　均，大橋 京一，渡邉 裕司，
熊谷 雄治，山崎　力，尾藤 晴彦，矢部 千尋

１．第18回国際薬理学・臨床薬理学会議（WCP2018）の準備状況
プログラムの大枠を決定し，分野別プログラム委員を委嘱した.プレナリーレクチャーは25件程度，シンポジウム／ワークショップは80件程度実施する.各国薬理学会および薬理学会員へ,平成28年2月末締切でプログラムの提案を依頼した.これまでに，プレナリーレクチャラーとして山中伸弥教授と，Karl Deisseroth教授を決定した.

２．IUPHARとの連携
IUPHAR理事会が平成27年5月23日に西安市（中国）で開催され，飯野理事長がIUPHAR次席副会長として出席した.また，前日の5月22日に同市で開催されたInternational Advisory BoardにおいてWCP2018の準備状況について報告した.

３．IUPHAR Nomenclature Committee（NC-IUPHAR）について
NC-IUPHARには，貝淵弘三教授（キナーゼ），金井好克教授（トランスポーター），石井優教授（免疫薬理学）が委員として参加している． NC-IUPHARのデータベース(Guide to Pharmacology)の利用方法について，データベースキュレーターのAdam Pawson氏を英国から招聘し，第88回年会（名古屋：今泉会長）でランチョンセミナーを開催した．

４．ASCEPT（オーストラリア・ニュージーランド薬理学会）との連携
本会とASCEPTとの講師交換プログラムにより，金井好克教授がASCEPT年会において平成27年12月2日に講演した．

５．ASPET（米国薬理学会）との連携
本会とASPETとの連携を強化するため，講師相互派遣プログラムを相互交流事業として開始し，第89回年会（石井会長）においてJeffrey Conn教授（Vanderbilt University）が来日して講演することとなった．

６．中国薬理学会との連携

中国薬理学会創立 30 周年記念学術集会（北京市）に飯野理事長が参加し，祝辞を述べて講演した.

７．APFP（Asia Pacific Federation of Pharmacologist）との連携

第 13 回 APFP 会議が平成 28 年 2 月 1 日～3 日の予定でバンコク市（タイ）において開催されるのに合わせ，WCP2018 の広報を行う予定.

８．BPS（英国薬理学会）との連携

本会とBPSとのジョイントシンポジウムを2017年にBPS年会（ロンドン市）で開催することを決定した.

【次世代の会活動報告】

代 表：山口　拓（西南）

委 員：北 部 会：井手聡一郎，小原祐太郎，塩田　倫史，
関東部会：大久保洋平，小菅　康弘，小山　隆太，宮川　和也，村田　幸久，藤田　智史，
近畿部会：久米　利明，永井　　拓，橋川　成美，古谷　和春，山村　寿男，タムケオ ディーン，
西南部会：林　　良憲，劉（島崎）爽

本年度は会議を１回開催した.

１．次世代の会企画シンポジウム

第 89 回年会にて以下の 2 シンポジウムが企画された.

Ⅰ）「観察と操作の最新技術による脳構造と機能の解明」

オーガナイザー：小山 隆太（東京大・院薬・薬品作用学，次世代の会）
笠井 淳司（大阪大・院薬・神経薬理学）

1）薬理遺伝学的手法を利用した神経回路形成メカニズムの研究
小山 隆太 （東京大・院薬・薬品作用学）

2）Flex システムを用いた脳内報酬系の解析：ドパミン D1 受容体発現中型有棘細胞の動作メカニズムの解明
永井　拓（名古屋大・院医・医療薬学・附属病院薬剤部）

3）マルチユニット記録と局所遺伝子改変による海馬情報処理メカニズムの研究
北西 卓磨（ノルウェー科学技術大・カヴリ研究所）

4）高速・高解像度の全脳細胞イメージング技術の開発：脳構造・機能変化の探索へ
笠井 淳司（大阪大・院薬・神経薬理学）

Ⅱ）「次世代の薬効評価を志す新規イメージング技術」

オーガナイザー：大久保洋平（東京大・院医・細胞分子薬理学，次世代の会）
洲崎　悦生（東京大・院医・システムズ薬理学）

1）全身全細胞解析技術による「個体レベルのシステム生物学」の進展
洲崎　悦生（東京大・院医・システムズ薬理学）

2）G 欠損型狂犬病ウイルスを用いた神経回路トレーシング法
小坂田文隆（名古屋大・院創薬・細胞薬効解析学）

3）光遺伝学的 fMRI を用いたアストロサイトによる BOLD 信号発生の研究
高田　則雄（慶應義塾大・医・精神･神経科学）

4）小胞体内腔 Ca^{2+}動態可視化による神経およびアストロサイト機能の解析
大久保洋平（東京大・院医・細胞分子薬理学）

2.「次世代の会」メンバーの追加

教授昇任によるメンバー退会に伴い，欠員の追加と部会毎の人数選定（北：関東：近畿：西南＝３：６：６：３）により，現在のメンバーを確定した.

3. その他

「次世代の会」による情報発信のためホームページ，ならびに本会活動に際しての「申し合わせ」について準備することを確認した.

Ｘ．新学術評議員一覧

平成28年度一覧（27名）

氏名	所属機関	〒　／　所在地	TEL
天野　英樹 AMAMO, Hideki	北里大学医学部 薬理学	252-0374 神奈川県相模原市南区北里1-15-1	042-778-9113
衣斐　大祐 IBI, Daisuke	名城大学薬学部 薬品作用学	468-8503 愛知県名古屋市天白区八事山150	052-839-2738
今井　　徹 IMAI, Toru	日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部	173-8610 東京都板橋区大谷口上町30-1	03-3972-8111
位田　雅俊 INDEN, Masatoshi	岐阜薬科大学 薬物治療学	501-1196 岐阜市大学西1-25-4	058-230-8100
植田真一郎 UEDA, Shinichiro	琉球大学大学院医学研究科 臨床薬理学	903-0215 沖縄県西原町上原207	098-895-1195
大垣　隆一 OHGAKI, Ryuichi	大阪大学大学院医学系研究科 生体システム薬理学	565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2	06-6879-3521
桂林秀太郎 KATSURABAYASHI, Shutaro	福岡大学薬学部 臨床疾患薬理学	814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1	092-871-6631
金田　勝幸 KANEDA, Katsuyuki	金沢大学医薬保健研究域薬学系 薬理学	920-1192 石川県金沢市角間町	076-234-4468
北岡　志保 KITAOKA, Shiho	神戸大学大学院医学研究科 薬理学	650-0017 兵庫県神戸市中央区楠町7-5-1	078-382-5442
久場　敬司 KUBA, Keiji	秋田大学大学院医学系研究科 分子機能学・代謝機能学	010-8543 秋田市本道1-1-1	018-884-6074
小渕　修平 KOBUCHI, Shuhei	兵庫医療大学薬学部医療薬学科 薬理学	650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1-3-6	078-304-3164
斉藤　麻希 SAITO, Maki	岩手医科大学薬学部 分子細胞薬理学	028-3694 岩手県紫波郡矢巾町西徳田2-1-1	019-651-5111
田口久美子 TAGUCHI, Kumiko	星薬科大学医薬品化学研究所 機能形態学	142-8501 東京都品川区荏原2-4-41	03-5498-5856
田嶋　公人 TASHIMA, Kimihito	城西国際大学薬学部 薬理学	283-8555 千葉県東金市求名1	0475-53-4585
鳥羽　裕恵 TOBA, Hiroe	京都薬科大学 臨床薬理学	607-8412 京都市山科区御陵四丁野町１	075-595-4724
冨田　賢吾 TOMITA, Kengo	富山大学大学院医学薬学研究部 分子医科薬理学	930-0194 富山市杉谷2630	076-434-7262
中村　智徳 NAKAMURA, Tomonori	慶應義塾大学薬学部 医療薬学部門	105-8512 東京都港区芝公園1-5-30	03-5400-2618
中村　裕也 NAKAMURA, Yuya	昭和大学医学部 医科薬理学	142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8	03-3784-8125
長谷川仁美 HASEGAWA, Hitomi	昭和大学医学部 医科薬理学	142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8	03-3784-8125
八田　光世 HATTA, Mitsutoki	福岡歯科大学 細胞分子生物・分子機能制御学	814-0193 福岡市早良区田村2-15-1	092-801-0411
藤田　孝之 FUJITA, Takayuki	横浜市立大学医学部 循環器腎臓内科	236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦3-9	045-787-2575
丸ノ内徹郎 MARUNOUCHI, Tetsuro	東京薬科大学 分子細胞病態薬理学	192-0392 東京都八王子市堀之内1432-1	042-676-4587
三坂　眞元 MISAKA, Shingen	福島県立医科大学 薬理学	960-1295 福島市光が丘1	024-547-1156
宮本　嘉明 MIYAMOTO, Yoshiaki	富山大学大学院医学薬学研究部 薬物治療学	930-0194 富山市杉谷2630	076-415-8823
山口奈緒子 YAMAGUCHI, Naoko	愛知医科大学医学部 薬理学	480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1-1	0561-62-3311
山本　昇平 YAMAMOTO, Shohei	川崎医科大学 薬理学	701-0192 岡山県倉敷市松島577	086-462-1111
渡邊　正知 WATANABE, Masatomo	福山大学薬学部 薬理学	729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵	084-936-2112